

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-06

法政大學講義録

上杉, 慎吉 / 松岡, 義正 / 山田, 三良 / 掛下, 重次郎 / 矢部, 廉 / 美濃部, 達吉

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

3-15

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1904-03-08

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可）
（每月十四日、十五日、十八日、廿一日、廿五日、廿八日發行）

三十七年度

明治三十七年三月八日發行

第三學年ノ十五

法政大學講義錄

第四拾七號



法政大學發行

第三學年第十五號目次

民法	親族	(自二八〇至二八五)	法律學士	掛下重次	耶
商法	手形	(自七二至七五)	法學士	矢部廉	
行政法	總論	(自六〇至六三)	法學博士	美濃部達吉	
行政法	各論	(自一三五至一五〇)	法學士	上杉愼吉	
國際私法		(自一七三至一七五)	法學博士	山田三良	
民事訴訟法		(自一〇五至一二四)	法學士	松岡義正	

雜報

○親族會ノ家督相續人選定權及ヒ過半數議決ノ意義○振出人ノ肩書ニ記載セル住所以外ニテ發行シタル約束手形ノ效力○地上權者ノ有スル工作物ノ競賣開始決定ノ效果

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十四條第一項及ヒ第八百十五條ニ相當スルモノニシテ其理由モ全ク同一ナレハ今復タ茲ニ叙述セサルナリ

(三) 第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號自己ノ直系尊屬ニ對スル他ノ一方ノ虐待又ハ侮辱ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十六條ニ相當スルモノニシテ其規定ノ性質全ク同一ナレハ茲ニ復説セス

(四) 第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百六十六條第六號ハ養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサル場合ナルカ養子カ復歸シタルトキハ離縁ノ原因消滅シタルモノノ如シト雖モ三年以上モ逃亡ヲ爲スカ如キ養子ハ養親ニ於テ之ヲ信任スルコト能ハサルヘキヲ以テ復歸シ

090
1904
3-1-15

第三學年第十五號目次

民法	親族	(頁二八五)	法學士	掛下重次	耶
商法	手形	(頁五七)	法學士	矢部	康
行政法	總論	(頁六三)	法學博士	美濃部達吉	
行政法	各論	(頁一五〇)	法學士	上杉	慎吉
國際私法	法	(頁一七五)	法學博士	山田	三良
民事訴訟法	自第六編	(頁一〇五)	法學士	松岡	義正
	至第八編	(頁二四)			

雜報

○親族會ノ家督相続人選定權及ヒ過半数議決ノ意義○振出人ノ有書ニ記載セル住所以外ニテ發行シタル約束手形ノ效力○地上權者ノ有スル工作物ノ競賣開始決定ノ效果

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十四條第一項及ヒ第八百十五條ニ相當スルモノニシテ其理由モ全ク同一ナレハ今復タ茲ニ叙述セサルナリ

(三) 第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號自己ノ直系尊屬ニ對スル他ノ一方ノ虐待又ハ侮辱ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十六條ニ相當スルモノニシテ其規定ノ性質全ク同一ナレハ茲ニ復説セズ

(四) 第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百六十六條第六號ハ養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサル場合ナルカ養子カ復歸シタルトキハ離縁ノ原因消滅シタルモノノ如シト雖モ三年以上モ逃亡ヲ爲スカ如キ養子ハ養親ニ於テ之ヲ信任スルコト能ハサルベキヲ以テ復歸シ

タル後ト離婚モ仍ホ其離婚ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲セリ然レトモ養子ノ復歸シタルコトヲ了知シタルニ拘ハラヌ長キ間離婚ノ請求ヲ爲サスシテ後年ニ至リ突然離婚ノ請求ヲ爲スコトアラハ是レ多クハ口實ヲ養子ノ逃亡ニ藉キ實際他ノ理由ニ依リテ離婚ヲ爲サント欲スル者ナラン故ニ法律ハ養親ニ養子ノ復歸後長年月看過スルコトヲ許サス養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ復タ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ許ササルモノト爲セリ若シ又養親カ養子ノ復歸シタル事實ヲ知ラサル場合ニ於テモ其事由發生シテヨリ既ニ十年モ經過シタルトキハ養子ノ非行ニ對スル感情ハ既ニ薄ク眞ニ其原因ノ爲メニ離婚ヲ請求セント欲スル者ハ稀ナルヘク而シテ養子ニ十年前逃亡シタルノ過失アリトスルモ今仍ホ同様ノ非行アルヘキ者ト看做シ難ク又養子ニ於テハ養親カ養子ノ復歸シタルヲ知レルコトノ證據ヲ舉クルコト能ハサルナリ故ニ法律ハ養子復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ許ササルモノト爲セリ

(五) 第八百七十二條 第八百六十六條第七號(三年以上養子ノ生死カ分明セテ

ルトキ)ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十七條ト全ク同一ナルヲ以テ茲ニ復説セサルナ

(六) 第八百七十三條第二項 第八百六十六條第九號ノ事由瑣養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六箇月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス(舊民法人事編第一四八條) 此規定ハ離婚ニ關スル第八百十八條第二項ト同趣旨ナリ唯離婚ノ請求ノ期間ハ三箇月ナルニ茲ニ規定スル離婚ノ請求期間ヲ六箇月ト爲シタル差異アルニ是レ曩ニ養子縁組ノ取消ニ關シテ説キタル第八百五十三條第八百五十五條第八百五十八條第二項ト同一ノ理由ニ基キタルモノナレハ茲ニ復説セサルナ

第八百六十六條第九號ノ場合ニ於ケル離婚訴權行使ハ方法第八七三條第一項
 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキ
 ハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得齋民法人事編第一四八條
 此規定ハ第八百十八條第一項ト同趣旨ニシテ殆ト其裏面ヲ規定シタルニ過キ
 ナレハ茲ニ復タ其理由ヲ叙述セサルナリ
 以上叙述シタル所ハ裁判上ノ離婚ニ關スル規定ナルカ協議上ノ離婚及ヒ裁判
 上ノ離婚ニ通スル特別規定アリ之ヲ左ニ叙述セン
 (一) 戸主タル養子ノ離婚第八七四條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離婚ヲ爲ス
 コトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス舊民法人事編第一四五條
 戸主タル養子ノ離婚ヲ許ストキハ一家ノ戸主ヲ廢スルニ至ル夫レ家族制度ヲ
 執ル一家ノ戸主權ハ一家ヲ管理スル絕對ノ權利ナレハ既ニ戸主ト爲リタル上
 ハ戸主ニ如何ナル事由アルモ其意思ニ反シテ他ヨリ之ヲ排斥スルコトヲ許サ
 ス亦隨テ養子カ戸主ト爲リタル後モ養子ヲ離婚シ戸主權ヲ排斥セシムルコト
 ヲ得ス然レトモ養子カ隱居ヲ爲ストキハ再ヒ家族ト爲ルカ故ニ之ヲ離婚スル

トモ毫モ戸主權ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ隱居ヲ爲シタル養子ヲ離婚スルコ
 トハ恰モ家族タル他ノ養子ヲ離婚スルコトヲ得ルト同シク許ササルヘカラス
 唯養子カ隱居ヲ爲スニハ法定ノ條件第七五二條乃至第七五五條ヲ具備セザル
 ヘカラサルコトハ勿論ナリ而シテ戸主カ隱居ヲ爲スニハ縱令法定ノ條件ヲ具
 備スト雖モ戸主獨リ任意ニ之ヲ爲スニ止マリ如何ナル事由アルトモ他ヨリ戸
 主ニ對シ訴ヲ以テ隱居ヲ爲サシムルコトヲ得ス故ニ戸主タル養子ニ離婚ノ理
 由生シタルトキハ法定ノ條件ノ具備シタル場合ニ於テ養子カ任意ニ隱居ヲ爲
 シタル後ニ非サレハ離婚ヲ爲スコトヲ得サルナリ
 此規定ハ一見スルトキハ從來ノ慣行ニ反スルカ如シト雖モ其實然ラサルナリ
 從來養子カ戸主タルトキ之ヲ離婚セントスルニハ戸主ノ儘離婚スルコトヲ許
 サス一旦戸主ヲ廢シテ養子ヲ離婚スルヲ例ト爲セリ故ニ戸主タル養子ヲ離婚
 スル訴訟ニ廢戸主離婚請求ト題スルモノ多カリシナリ
 縁組取消ノ訴ハ養子カ戸主ト爲リタルト否トヲ問ハサルハ其縁組カ不道法ノ
 モノタルカ故ニ此ノ如キ縁組ハ存在セシメサルヲ以テ可トスレハナリ(民法第

九六四條第二號參照

(二) 離縁ノ效力(第八七五條) 養子ハ離縁ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

養子カ離縁シタル場合ニ於テ第七百三十九條ノ規定ニ從ヒ實家ニ復籍シタルトキ爾後實家ニ於テ如何ナル關係ヲ有スルカ曾テ養子タラサル以前實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルカ將タ復籍後新ニ之ヲ取得スルモノナルカ養子ハ縁組ニ因リ實家ニ於ケル親族關係ヲ失ヒタルモノニ非ス之カ爲メニ養家ニ於ケル親族關係ヲ増シタルモ實家ニ於ケル關係ハ依然タルナリ例ヘハ實家ノ父母、兄弟、姉妹ハ同シク父母、兄弟、姉妹ナリ又實家ニ於テ嫡出子又ハ庶子タリシナラシニハ養子縁組ノ後モ同シク實家ノ父母ノ嫡出子又ハ庶子タルナリ故ニ離縁ノ後養子カ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルトハ右ノ親族關係ヲ指スニ非スシテ養子カ實家ニ於テ其身分ニ付キ有セシ權利義務等ヲ回復スルコトヲ謂フニ外ナラサルナリ例ヘハ養子ハ實家ニ復歸シテ相續權ヲ有シ親權及ヒ戶主權ニ服スルカ如キ是ナリ若シ養子カ離縁ニ因リ實家ニ復歸シタルトキハ以前

有セシ權利ヲ回復スルコトナクシテ復籍ノ時ヨリ新ニ其家ニ入りタル者ト同一ノ權利ヲ有スルモノト爲ストキハ次男ニシテ實家ニ兄長男ト弟(三男)トアリタル場合ニ於テ他家ノ養子ト爲リ兄長男死亡シタル後離縁シテ實家ニ復籍シタリトセシカ此場合ニ於テハ三男カ父ノ相續權ヲ有スヘシ又次男ニシテ實家ニ兄長男ト妹トアル場合ニ於テ他家ノ養子ト爲リ實家ニ於テハ兄死亡シタルヲ以テ妹ニ他ヨリ婿養子ヲ爲シタル後ニ至リ離縁シテ實家ニ復籍シタリトセシカ此場合ニ於テハ婿養子相續權ヲ有スヘシ然レトモ他家ノ養子タリシ者ハ本條ノ規定ニ依リ嘗テ實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルカ故ニ第九百七十條第一項第五號ノ規定ニ從ヒ當然實家ノ相續權ヲ有スヘシ然レトモ養子離縁ノ爲メ實家ニ於テ第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ侵害スルコトアルニ拘ハラズ離縁シタル者カ其權利ヲ回復スルコトヲ得ルモノトスレハ第三者ハ意外ノ損失ヲ被ルコトアルヘキヲ以テ法律ハ但書ヲ設ケ第三者ノ權利ヲ保護シ實際上ノ弊害ヲ豫防セリ故ニ前ニ舉ケタル例ニ於テ養子離縁ノ際弟(三男)又ハ妹婿カ既ニ父ノ相續權ヲ爲シタル後ナルニ於テハ養子タリシ者ハ

此相續人ヲ排斥シテ相續ヲ爲スコトヲ得タルナリハニ償マハ第七條ノ旨ニ
 (三) 第八百七十六條、夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ
 爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルベキトキハ夫ハ其選擇ニ從
 ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス、其選擇ニ從ヒテ養家ヲ去ルベキトキハ夫ハ其選擇ニ從
 夫婦カ共ニ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻シタル場合ニ於テ其
 一方ノミヲ離縁スルヲ得ヘキコトハ既ニ叙述セリ然レトモ夫婦ノ一方ノミ他
 ノ養子ト爲リテ居リテカラ離縁シタル者ト依然夫婦ノ關係ヲ存スルコトハ許
 スヘキニアラサルナリ何トナレハ本法ノ規定第七四五條第七六四條第二項第
 七八八條ニ依リ夫婦家ヲ異ニスルコトヲ得ナレハナリ若シ夫婦中ノ夫ノミ離
 縁ト爲リタル場合ニ於テハ妻ハ當然夫ニ隨ヒテ其家ニ入り之ト同時ニ離縁ト
 同シク其養家ニ對スル親族關係ヲ脫スルモノナレハ此場合ニ於テハ何等ノ支
 障ヲ生セサルナリ之ニ反シテ妻ノミ離縁セラレテ養家ヲ去リタルトキハ夫ハ
 固ヨリ當然妻ノ家ニ入ルモノニ非ス是ヲ以テ夫ハ此場合ニ於テ養家ニ對スル
 縁組關係カ若クハ妻ニ對スル婚姻關係カ孰レカ其一ヲ絶タサルヘカラス然レ

トモ法律上此ノ如キ場合ニ夫カ絶ツヘキモノヲ豫メ指示シテ夫ノ自由ヲ拘束
 スルコトハ人情ニ反シ其當ヲ得サルヲ以テ本法ハ夫ヲシテ縁組關係ヲ絶ツヘ
 キカ將タ婚姻關係ヲ絶ツヘキカニ付キ夫ニ選擇權ヲ與ヘ或ハ協議ニ依リ或ハ
 裁判所ニ請求シテ離縁又ハ離婚ノ孰レカラ爲スコトヲ要スルモノト爲セリ

第五章 親權

親權ノ性質、親權トハ法律カ子ノ身分及ヒ財産ニ關シテ其家ニ在ル父又ハ母
 ニ對シテ付與シタル權利及ヒ義務ノ集合ナリ此定義ニ從フトキハ親權ヲ有ス
 ル者ハ子ト家ヲ同シクスル父母ニ限ルカ故ニ縱令父母ト雖モ子ト家ヲ同シク
 セサル者ハ此權利ヲ有セス而シテ祖父母其他ノ尊屬親ハ勿論戸主ノ如キモ父
 母ニ非サル限ハ親權ヲ有セス又家ニ在ル父母カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ親
 權ヲ有スト雖モ其權利ハ實父母養父母ノ如ク完全ナラスシテ制限セラレル所
 アリ(第八七八條)而シテ子ニ付テ言ヘハ親權ニ服スル者ハ嫡出子タルト庶子タ
 ルト私生子タルトニ付キ區別アラサルナリ

親權ニ服スル子ノ年齢ハ之ヲ成年ニ達スルマテト限ラサルカ故ニ其年齢ニ付
 ナハ制限ナシト雖モ法律ノ規定上成年者ニ對スル親權ノ效力ハ極メテ薄弱ナ
 リ獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ親權ニ服セス(第八七七條)而シテ獨立ノ生計ヲ
 立ツル成年ノ子ト雖モ婚姻第七七二條協議上ノ離婚(第八〇九條)養子縁組第八
 四四條協議上ノ離婚第八六三條ヲ爲スニ付テハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ル
 コトヲ要スルハ親權ノ效力トシテ然ルニ非サルナリ何トカレハ親權ハ父母カ
 同時ニ之ヲ行フコトナシト雖モ此場合ニハ同時ニ兩者ノ同意ヲ要シ又繼令父
 又ハ母カ親權ヲ喪失シタルコトアリトモ其同意ヲ得ルコトヲ要スレハナリ
 法律カ親權ヲ設ケタル趣旨ハ親權ヲ有スル者ノ直接ノ利益ノ爲メニ非スシテ
 親權ニ從フ者ノ直接ノ利益ノ爲メナリ元來親ハ其子ヲ養育シ教育スルノ義務
 アリ而シテ其養育教育ノ義務ヲ盡スニハ能ク其子ヲ養育シ得ルノ狀態ニ在ラ
 シメタルヘカラス蓋シ親ヲシテ能ク其子ヲ教育シ得ルノ狀態ニ在ラシメシト
 欲セハ先ツ親ニ之ヲ制御スルノ權ヲ與ヘタルヘカラス換言スレハ監護ノ權ヲ
 與ヘテ父母ノ住家ヲ去リタル子ヲ歸家セシムルノ權力ヲ得セシメ又懲戒ノ權

ヲ與ヘテ重大ナル不行跡ノ子ヲ威化場又ハ懲戒場ニ入ルルノ權力ヲ得セシム
 ルコトヲ要スルカ如キ是ナリ又子自ラ其利益ヲ保護スルノ能力ナキカ故ニ父
 又ハ母ハ之ニ代リテ其利益ヲ保護ス而シテ親權ハ此點ニ付テハ子ノ利益ヲ保
 護スルヲ以テ其目的ト爲スカ故ニ親權ヲ行フ者カ爲ス行爲ノ範圍ハ子ノ利益
 ヲ害セサルヲ限度ト爲シ其不利益タルヘキ行爲ハ決シテ之ヲ許ササルナリ
 親權ノ設定ノ目的ハ右ニ説クカ如ク主トシテ子ノ直接ノ利益ノ爲メナレトモ
 又國家及ヒ父母モ亦之カ爲メニ間接ノ利益ヲ有ス其國家ノ利益トシテハ親權
 ノ設定ナキトキハ教育ナキ不良ノ徒ヲ増シ國家ノ自存及ヒ發達ヲ妨クヘク財
 産管理ノ能力ナキ者ノ財産ヲ抛擲スルハ國家經濟ノ利益ヲ害スルナリ又親權
 ヲ行フ者ノ利益トハ子カ完全ニ發達スルト否トハ親ノ利益ニ重大ノ影響ヲ及
 ホスコトハ言フ埃タサルナリ
 親權ハ子ノ保護ノ爲メニ設ケラレ後見ノ制度モ亦然ルモノニシテ未成年者ノ
 爲メニハ保護ニ付キ二箇ノ方法アリト雖モ子カ其家ニ於テ父母ヲ有スルトキ
 ハ親權ニ依リテ之ニ保護ヲ受ク此場合ニハ後見ヨリ生ズル保護ヲ受ケサルナ

リ其後見ヲ以テ未成年者ヲ保護スルハ父母ナキトキニ限ルナリ然レトモ母ノ
 存スルトキト雖モ母ニシテ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ其財産ノ管理
 ニ付テハ母アルニ拘ハラズ後見ノ開始ヲ見ルヘシ第八九九條第九〇條第一號
 故ニ未成年者ノ爲メニハ二箇ノ保護アリト雖モ同時ニ二箇重複ノ保護ヲ受ク
 ルニ非サルナリ

親權トハ主權 親權ヲ行フ者カ一家ノ戶主ナルトキハ親權トハ主權ト同一人
 ニ集マルカ故ニ此等二者ノ衝突ヲ見ルコトナシト雖モ若シ親權ヲ行フ者ノ外
 ニ戶主アルトキハ親權ニ服スル者ハ同時ニ戶主權ニモ服セサルヘカラサルモ
 ノニシテ此二者ハ相互ニ衝突スルニ非サルカノ疑ナキ能ハズ然レトモ深ク新
 法ヲ檢覈スルトキハ決シテ衝突スルモノニ非サルナリ先ツ親權ハ子ノ身上及
 ヒ財産上ノ利益ヲ圖リテ之ヲ設ケ戶主權ハ家ノ利益ノ爲メニ之ヲ設ケタルモ
 ノナルカ故ニ其目的自ラ同シカラサルモノナリ例ヘハ子ノ教育懲戒其財産ノ
 管理等ハ専ラ親權ノ作用ニ屬シ毫モ戶主權ニハ關係ヲ有セサルナリ戶主權ハ
 家族ノ居所ヲ定メ其婚姻養子縁組ヲ許否シ其他家族カ其家ヲ辭シテ他家ニ入

リ他家ヨリ其家ニ入ルニ付キ同意ヲ表シ又ハ不同意ヲ唱フルノ權ヲ有スルニ
 過キス換言スレハ戶主權ハ家ノ管理ヲ以テ目的ト爲シ親權ハ人ノ保護ヲ以テ
 目的ト爲ス而シテ前者ハ其效力家ノ全體ノ利害ニ影響スヘキモノノ外ヲ出
 ス後者ハ其效力専ラ各個人ノ身上財産ニ對スルモノニシテ其目的效力ヲ異ニ
 スルカ故ニ二者衝突シテ家内ノ平和ヲ破ルノ恐アラサルナリ然レトモ戶主ハ
 家族ノ居所ヲ定ムル權ヲ有シ(第七四九條親權ヲ行フ者モ亦同一ノ權ヲ有ス(第
 八八〇條)又家族カ婚姻又ハ縁組ヲ爲スニハ戶主ノ同意ヲ要シ尙ホ其他家ニ在
 ル父母ノ同意ヲモ要スヘキヲ以テ其一方カ定メタル居所ト他ノ一方カ定メタ
 ルモノト同シカラサルコトアルヘク又ハ婚姻縁組ニ付テモ兩者ノ意見同シカ
 ラサルコトアルヘシト雖モ此等ノ場合ニ於テハ親權者カ戶主ノ定メタル居所
 又ハ婚姻又ハ縁組ニ關スル其意見ニシテ未成年者ノ爲メ甚タ不利益ト認メ戶
 主カ與フヘキ制裁ヲ甘受シテ子ノ居所ヲ定メ婚姻又ハ縁組ヲ爲スヲ得ルコト
 ハ成年ノ家族カ之ヲ爲スト敢テ異ナルコトナシ故ニ此等ノ事項ニ關シテモ兩
 者ノ間ニ衝突アルヘキ謂レナキナリ

本章ハ之ヲ分チテ三節トス即チ第一節總則第二節親權ノ效力第三節親權ノ喪失是ナリ

第一節 總則

此節ニ於テ親權ヲ行フ者及ヒ親權ニ服スル者ハ何人ナルヤヲ定ムルハ親權ニ服スル者及ヒ親權ヲ行フ者第八七七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス 父カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ(舊民法人事編第一四九條) (一) 親權ニ服スヘキ者ハ未成年ノ子ニ限ルヘキヤ或ハ未成年成年ヲ問ハサルヘキヤハ諸國ノ立法例異ナル所アリト雖モ其多クハ未成年ノ子ニ限ル然レトモ稀ニ一層制限シ未成年者ニシテ未タ自治産ノ宣告ヲ得サル者ニ限り既ニ之ヲ得タル者ハ未成年者ナリト雖モ親權ニ服セサルコトト爲スモアリ舊民法人事編ハ何等ノ制限ヲモ設ケスシテ廣ク親權ハ父之ヲ行フ云云ト規定シタレハ

解釋上成年ノ子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルモノト爲シタレトモ是レ從來ノ慣習ニ反スルヲ以テ新法ハ以上ノ立法例ト我國情トニ基キ原則トシテ親權ニ服スル者ハ子ノ成年ト未成年トヲ分タサルコトト爲シタレトモ其例外トシテ獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ親權ニ服セサルモノト爲シタリ而シテ獨立ノ生計ヲ立ツルヤ否ヤハ固ヨリ事實問題ニシテ裁判官ノ査定ニ任スヘキモノナレトモ獨立ノ生計ヲ立ツルトハ自己ノ資產若クハ勞務ニ因リテ生活スルヲ謂フ獨立ノ生計ヲ立テタル成年者ハ其戶主タルト家族タルト又婚姻ヲ爲シタル者ト否トヲ問ハス常ニ親權ニ服スルモノトス獨立ノ生計ヲ立テタル成年者カ婚姻ヲ爲シ子ヲ擧ケタルトキハ己レ自身ハ親權ニ服スレトモ之ニ拘ハラス其子ニ對シテハ親權ヲ行フコトヲ得若シ親權ニ服スル未成年者カ婚姻ヲ爲シテ子ヲ擧ケタルトキハ其子ニ對スル親權ハ其父タル未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者之ニ代リテ親權ヲ行フ然レトモ親權ノ效力ハ懲戒權ヲ除ク外ハ單ニ未成年者ニ付テノニ存スルモノト爲セリ(第八七九條乃至第八八五條故ニ成年者ニ對スル親權ノ效力ハ實際ニ於テ甚重ヲ薄弱ナリ) (二) 對スル親權ノ效力ハ實際ニ於テ甚重ヲ薄弱ナリ

(二) 親權ヲ行フ者ハ原則下シテハ其家ニ在ル父ナリ然レトモ私生子ノ如ク父カ知レザルトキ父カ死亡シタルトキ又ハ分家ヲ爲シ廢絶家ヲ再興シ他家ノ養子ト爲リ養子カ離縁ヲ爲シ入夫カ離婚ヲ爲シタル等ニテ其家ヲ去リタルトキ又ハ不在心神喪失等ニテ親權ヲ行フコト能ハザルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フベキモノト爲セリ

古昔羅馬ニ於テハ親權ノ設定ハ專ラ父ノ利益ノ爲メニスルノ精神ニ出テタレトモ近世諸國ノ立法ニ於テハ主トシテ子ノ利益ノ爲メニスルノ主義ヲ取レルカ故ニ子ノ天然ノ保護者タル父及ヒ母ニ親權ヲ屬セシメタリ然レトモ是レ父母同時ニ之ヲ行フニ非スシテ母ハ以上叙述スルカ如ク父カ親權ヲ行フコト能ハザルトキニ限り之ヲ行フナリ而シテ親權ハ父又ハ母ト雖モ子ト家ヲ同シラヌル者ニ限ル故ニ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル子ニ對シテハ實家ノ父母ハ親權ヲ行フコトヲ得ヌ又子カ家ヲ去リタルニ非スシテ親權ヲ行フ者カ分家若クハ本家相續ヲ爲メ又ハ離縁若クハ離婚シテ其家ヲ去リタル場合ニ於テモ親子家ヲ異ニスルヲ以テ親權ヲ行フコトヲ得ザルナリ而シテ養子縁

ニ金錢其物ヲ得ルモノニ非ス普通商業上ニ於テハ手形ハ支拂ノ要具トシテ用ヒラレ商人ハ手形ノ授受ヲ以テ恰モ金錢ノ授受ノ如ク看做セトモ法律上ヨリ觀察セハ手形讓受人ノ得ル所ノモノハ單ニ一定ノ期日ニ於テ一定ノ金錢ヲ支拂ハルヘキ請求權ヲ得ルニ過キス是レ即チ手形ハ債權的證券ナリト謂フ所以ナリ

第三ノ手形上ノ債權債務ハ其之ヲ發生セシムルニ至レル目的原因ト無關係ナリ

此第三ノ性質ハ又第四百三十五條ノ規定ヨリ自ラ流出スル所ノ性質ナリ而シテ此點ハ學者ノ所謂不要因ノ債務ト稱スル所タリ蓋シ手形ノ流通ヲ容易ニシテ商業上ニ重セラレル所以ハ主トシテ此點ニ基カスンハ非ス凡ソ一般ノ法律行為ニハ一定ノ目的アルコトヲ要シ其目的ノ如何ニ依リテ債務名義ヲ異ニス例ヘハ茲ニ甲ヨリ乙ニ對シテ百圓ヲ辨濟スヘキ債務アリトスルモ其目的ニ依リテハ或ハ百圓ノ贈與ナルコトアルヘク或ハ百圓ノ消費貸借ナルコトアルヘシ又或ハ賣買ノ對價タルコトアルヘキナリ而シテ其贈與タルト消費貸借タ

ルト又或ハ賣買ノ對價タルトニ依リテ其債務ニ適用スヘキ法律ノ規定ハ各異ナレリ隨テ其債權債務ノ效力モ異ナルモナリ然ルニ手形上ノ債權債務ハ縱令贈與ノ爲メニ其證券ヲ作成スルモ又ハ消費貸借ノ方便トシテ之ヲ作成スルモ將タ又賣買ノ對價トシテ之ヲ作成スルモ其目的ノ如何ニ依リテ手形上ノ債權債務ノ關係ハ少シモ左右セララルコトナシ百圓ヲ支拂フヘキ手形上ノ債務ハ單ニ一定ノ期日ニ百圓ノ支拂ヲ爲スヘキ手形債務タルモ過キス其起因ニ如何ナル事由アルモ其證書ノ示ス期日ニ百圓ヲ支拂フヘキコトニ付テハ手形上ノ債權義務トシテハ何等ノ影響ヲ受タルコトナシ是レ即チ手形カ不要因ノ債權ナリト謂フ所以ナリ此ノ如キ性質ナルカ故ニ一タモ振出シタル手形ハ多數ノ當事者間ニ種種ノ目的ヲ以テ使用サルコトヲ得ルモノナリ例ヘハ振出人ハ商品ノ代價ヲ拂フカ爲メニ百圓ノ手形ヲ作成シ受取人ハ贈與ノ爲メニ其手形ヲ讓渡シ其讓受人ハ更ニ消費貸借ノ方便トシテ其手形ヲ裏書シ其次ノ裏書人ハ使用貸借トシテ其手形ヲ讓渡スコトヲ得ヘシ此ノ如ク如何ナル目的ニモ適合スヘキ手形ノ性質ハ其流通ヲ盛ナラシムル所以ナリ

第四ノ手形ハ要式的債權ナリ由リテ其債權ノ發生ハ法律ノ定ムル所ノ形式ヲ踐マサルヘカラス其手形ノ債權債務ノ發生ニハ必ス法律ノ定ムル所ノ形式ヲ踐マサルヘカラス其法定ノ形式ヲ具備セザル以上ハ手形上ノ債權債務ハ發生セス爲替手形ハ商法第四百四十五條ニ記載セル事項ヲ記載スルコトヲ要シ約束手形ハ第五百二十五條ニ小切手ノ要件ハ第五百三十條ニ定ムル所ナリ若シ此等ノ要件ノ一ヲ缺クトキハ其書面ハ手形トシテ效力ナシ

第五ノ手形ハ法律上ノ指圖債權ナリ依リ他人ニ移轉スルコトヲ得即チ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ルコトハ手形ノ普通ニ備フル性質トシテ認メラル第四百五十五條ニハ爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ル旨ヲ規定シ以テ其意ヲ明カニセリ本條ノ規定ニ依レハ手形ノ裏書讓渡ニハ特別ニ指圖文句ヲ必要トセス故ニ甲又ハ其指圖人ニ支拂フ云云ト記サタルモ法律上恰モ然ク書キタルモノト同一ノ效力ヲ生ス是レ他ノ一般ノ有價證券ト異ナル所ニシテ他ノモノハ其裏書讓渡ヲ爲スニハ必ス指圖文句ヲ必要ト

ス然ルニ手形ハ之ヲ必要トセス是レ第四百五十五條ノ規定ノ結果ナリ然レトモ裏書讓渡ヲ爲スコトハ手形ノ絕對的必要條件ナラザルカ故ニ手形ハ裏書讓渡ヲ禁スルコトヲ得ヘク即チ手形ヲ發行スルトキ振出人カ之ヲ禁シタルトキハ裏書禁止ノ手形ト稱シ裏書讓渡ヲ爲ストキニ裏書讓渡人カ裏書ヲ禁止スルトキハ其裏書ヲ裏書止メノ裏書讓渡ト謂フ是レ第四百五十五條但書及ヒ第四百六十條ニ規定スル所ナリ

第六 手形上ノ債務ハ獨立ナリ

手形ヨリ發生スル債務ハ其發生ヨリ效力ニ至ルマテ一切他ノ債務ト關係ナク獨立シテ其作用ヲ爲シ互ニ併立スル他ノ手形上ノ債務ノ成立スルト否ト又有效ナルト否トニ關係ナク其レ自身單獨ニ成立シ若クハ效用ヲ呈ス是レ亦手形上ノ債務ノ特質ナリ例ヘハ手形ノ振出人ノ署名ハ虛偽ナル場合ニ於テ振出人ハ手形上ノ責任ヲ負ハスト雖モ一タヒ其手形ヲ引受ケタルトキハ引受人ノ署名ニシテ眞實ナル以上ハ引受人ハ其手形ノ文言ニ從ヒテ支拂ノ義務ヲ負擔シ振出人ノ署名カ虛偽ナルノ理由ヲ以テ自己ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス又一ノ裏

書人ノ署名カ虛偽ニシテ其次ニ裏書ヲ爲シタル者ノ署名ハ眞實ナルトキハ其眞實ノ裏書ヲ爲シタル人ハ其前ノ裏書カ虛偽ナルヲ理由トシテ自己ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス依然トシテ其手形ノ文言ニ從ヒテ其責ヲ負フヘキモノトス(第四三七條)

次ニ手形ノ署名中無能力者ノ署名アリテ其署名カ取消サルルニ至ルト雖モ之カ爲メニ他ノ者ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス即チ無能力者以外ノ者ノ手形上ノ權利義務ハ各其文言ニ依リテ決定サレ其範圍内ニ於テ效力ヲ有ス(第四三八條)此ノ如ク手形上ノ債務ハ各固有ニ成立シ他ノ手形上ノ債務ノ成立スルト否トニ依リテ其成否ヲ決定スルモノニ非ス是レ即チ手形上ノ債務ハ獨立ナリト云フ所以ナリ

上來述ヘタル所ニ依リ手形ノ性質ニ付キ其大要ヲ説明シタリ而シテ手形ノ總論トシテ尙ホ説明ヲ要スヘキ點ハ(一)手形ノ偽造、變造(二)手形上ノ權利行使又ハ保全ノ爲メニスヘキ行為ノ場所(三)手形ノ時効(四)手形ノ不當利得(五)手形ノ國際

的法律關係等ノ諸點アリト雖モ此等ハ理解ノ便宜ヲ圖ランカ爲メニ特ニ各論ヲ説明シタル後ニ讓ルヘシ

第二編 爲替手形

第一部 爲替手形ノ成立及ヒ其單純ナル行動

爲替手形ノ法律關係ヲ大別スレハ其成立シテヨリ支拂ニ至ルマテ何等ノ故障ナクシテ終ルモノ即チ振出サレ引受ケラレ裏書サレ遂ニ満期日ニ至リ支拂ハレテ消滅スルモノト流通ノ際ニ或ハ引受ナク或ハ支拂ナキ爲メニ其常態ニ變化ヲ來ス場合トノ二ツアリ本部ニ於テハ先ツ爲替手形ノ發生シテヨリ消滅スルニ至ルマテニ何等ノ故障ナキ場合ニ付テ其諸種ノ法律關係ヲ説明シ其變關ノ場合ノ法律關係ニ付テハ別ニ第二部ヲ設ケテ之ヲ説明スヘシ

第一章 爲替手形ノ振出

爲替手形ノ振出トハ法律ニ定ムル所ノ形式ニ從ヒ爲替手形ナル證書債權ヲ作

成スルヲ謂フ換言スレハ爲替手形ナル證書債權ヲ成立セシムル手形行爲是ナリ此行爲ニ付テハ手形法ハ第四百四十五條ヲ以テ其一般ノ形式ヲ規定セリ而シテ其形式タルヤ頗ル嚴格ナル效力ヲ有シ其要件ノ一ヲ缺タモ手形ハ無効タリ蓋シ法律カ此ノ如キ規定ヲ設ケタル所以ハ爲替手形ナルモノハ主トシテ流通ノ爲メニ設ケタルモノニレテ其證書ハ何人ニモ容易ニ爲替手形タルコトノ知レ得ルコト必要ナルノミナラス手形ニハ之ニ伴フ所ノ種種ノ嚴格ナル法律關係アリ此等ノ理由ニ因リテ手形ニハ一定ノ嚴格ナル形式ヲ定ムルコト最モ必要ナリ以下順次振出ノ要件ニ付キ説明スヘシ

第一 爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
手形ナルモノハ一種ノ流通證券ナリ然レトモ流通證券ナルモノハ唯手形ノミニ限ラス故ニ他ノ流通證券ト區別スル爲メ又一ニハ手形中他ノ手形ト區別スル爲メ此要件ヲ必要トセリ此規定ハ舊商法ニ見サル規定ナリシカ新商法ニ於テ始メテ規定セラレタルモノナリ而シテ此要件ノ主旨ハ爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字ヲ特ニ記載シテ其手形ノ爲替手形ナルヘキコトヲ表示セシムル

爲メニ設ケタル獨立ノ一要件タリ故ニ手形面ノ全體ノ文字又ハ他ノ形式ヨリ概シテ爲替手形ナルコトノ明カナル場合ト雖モ此表題ヲ缺ク以上ハ仍ホ其手形ハ爲替手形トシテ無効ナリト謂ハサルヘカラス元來手形法ノ規定ニ依リ細ニ三種ノ手形ヲ比較セハ縱令爲替手形約束手形又ハ小切手ト云ヘルカ如キ表題ノ記載ナクトモ全體ノ文言又ハ形式ニ依リ三種ノ手形ハ多クノ場合ニ自ら區別アリト雖モ本要件ヲ缺クニ於テハ手形ハ無効タルモノトス

第二 一定ノ金額

是レ即チ手形債權ノ目的タルモノナリ舊商法ニハ之ヲ爲替金額ト唱ヘ而シテ別ニ一定又ハ確定ナル文字ナカリシト雖モ舊商法ト雖モ不確定ナル手形金額ヲ認メタル趣意ニアラス故ニ新商法ハ特ニ一定ナル文字ヲ用ヒ其意ヲ明カニセリ即チ手形金額ノ記載ハ必ス確定シタル金額ヲ掲ケサルヘカラス縱令或金額ヲ記載スルモ其額確定セサル場合ニ於テハ其手形ハ無効ナリ我手形法ニ於テハ此點ニ付テ何等ノ明文ナシト雖モ手形ノ滿期日ヲ確定ナル

日又ハ日附後確定セル期間ヲ經過シタル日ナルトキハ一定ノ利子ヲ附スルニ於テハ其金額ハ結局確定スベキヲ以テ此場合ニ於テハ手形ヲ無効トスベキ理由ナシ但此點ニ付テハ無効說ヲ唱フル者ナシトセシメテ手形面ニ金額ヲ多樣ニ記載シタル場合ニハ往往ニシテ誤記ヲ爲シ彼此金額ニ差異ヲ生スルコトアリ此ノ如キ場合ニハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額ト看做ス隨テ其主タル部分ノ記載カ手形債權ノ目的タル金額ト爲リ他ノ部分ノ記載ハ其金額ノ多少ニ拘ハラズ手形上ノ效力ヲ生セス(第四四六條)第三 支拂人ノ氏名又ハ商號 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ依リテ支拂人ノ氏名又ハ商號ヲ表示スルハ其氏名又ハ商號ニ依リテ之ヲ表ハスコトヲ得舊商法ニ於テハ支拂人ハ手形金額ノ支拂ヲ委託テ受クル人ニシテ即チ手形當事者ノ一人ナリ故ニ必ス之ヲ手形ニ記載セサルヘカラス此支拂人カ法律ニ定メタル形式ヲ踐ミテ手形金額ヲ支拂フヘキ意思ヲ表示シタルトキハ則チ引受人ト爲ル支拂人ハ表示ハ其人ノ氏名又ハ商號ニ依リテ之ヲ表ハスコトヲ得舊商法ニ於テハ支拂人ノ表示ハ其氏名ノミヲ以テシ商號ヲ以テスルコトヲ認メテナリシカ商號ハ商人カ商業上常ニ使用スル自己ノ表題ニシテ或場合ニハ本來ノ氏名ヨリモ能

知ラレ居ルコトアリ隨テ商取引ノ止ニ於テハ支拂人ヲ示スニ商號ヲ以テスルコト便利ナリ又法人ニハ氏名ナルモノナシ故ニ此等ノ爲替手形ハ商號ヲ以テ表示スルコトヲ得ナルトキハ甚タ不便ナリ

第四 受取人ノ氏名又ハ商號ハ其爲替手形ニ依リテ受取人ノ氏名又ハ商號ヲ以テ表示スルコトヲ得ナルトキハ甚タ不便ナリ

受取人ハ亦手形當事者ノ一人ナリ隨テ必ス手形ニ記載セラルヘカラス又受取人ハ手形當事者中ニ於テ唯一人ノ手形債權者ノ地位ニ立ツモノナリ其受取人ヲ表ハス方法ハ亦支拂人ニ於ケルト同様ニシテ其人ノ氏名又ハ商號ヲ以テス蓋シテ然ルニ新商法ニハ之ヲ要件トセス何トナレハ新法ニ於テハ第四百五十五條ニ於テ爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得ト規定セル結果トシテ總令指圖文句ヲ手形面ニ記載セサルモ恰モ之ヲ記載シタルト同シト裏書ニ依リテ自由ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得ヘケレハナリ

受取人ノ記載ハ爲替手形ニハ原則トシテ之ヲ掲ケサルヘカラスアルモ其金額三十圓以上ノモノニ限リテ之ヲ無記名式ト爲スルト許セリ(第四九條即チ金額三十圓以上ノモノ)

額三十圓以上ナルトキハ受取人ノ氏名又ハ商號ナキ手形モ仍ホ有效ナリ即チ換言セハ所持人ニ支拂ノ旨ヲ記載シタル手形ハ其金額三十圓以上ナル場合ニ限り有效ナリ故ニ爲替手形ノ本號ノ要件トシテハ受取人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルカ又ハ所持人ニ支拂ヘキ旨ヲ記載スルカノ二ナリ然レトモ指圖人ニ支拂フヘキ旨ヲ記載スルモ妨ナシ唯此記載ヲ以テ要件トセサルニ過キス

第五 單純ナル支拂ノ委託

爲替手形ハ他人ヲシテ一定ノ金額ヲ支拂ハシムヘキモノナルヲ以テ支拂ノ委託文句ヲ必要トスルハ當然ナリ而シテ其文句タルヤ必ス單純ノ支拂ナラサルヘカラス支拂ニ條件ヲ附スルカ又ハ債權者ニ或債務ヲ負擔セシムルカ如キ委託ハ手形ノ性質ヲ不確定ナラシメ且其流通ヲ妨タル恐アルヲ以テ支拂ノ委託文句ナルモノハ必ス單純ナラサルヘカラス若シ之ニ背クトキハ手形ハ全然無効ナリ

第六 振出ノ年月日ノ記載スルハ法律上種種ノ必要アリ例ヘハ日附後定期拂ノ手形

又満期日ハ新商法ニ於テハ舊商法ト異ナリ支拂ヲ請求スヘキ唯一ノ日ニ非ス
シテ支拂ヲ請求シ得ヘキ最初ノ日ナリ蓋シ新商法ニ於テハ満期日又ハ其後二
日以内ハ有效ニ支拂ヲ請求シ得ルモノトス(第四八七條第四八五條又新商法ニ
於テハ縱令満期日カ祭日ニ該當スルモ舊商法ニ於ケルカ如ク支拂日ニ延長ヲ
來スコトナシ

第八 支拂地

支拂地ハ即チ手形債務ノ履行地ニシテ是レ亦手形ニ記載セサルヘカラス又支
拂地ハ債務ノ履行地タルノ外普通ニ手形ノ呈示又ハ拒絕證書作成ノ土地ナリ
支拂地ハ原則トシテ手形ニ記載セサルヘカラサルモ若シ之ヲ手形ニ記載セザ
ルトキハ其手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地方ルトキハ其住所地方ヲ以テ支拂
地ト看做ス(第四五二條)故ニ若シ支拂地ヲ記載セサル場合ニ支拂人ノ住所地方
ノ記載モ共ニナキトキハ其手形ハ全然支拂地ノ記載ナキ手形ト爲リ結局無効タ
ルナリ

自署ナリ然レトモ自署ニ價レサル實業者カ之ヲ不便トシタルカ爲メ明治三十
三年法律第十七號ノ單行法ヲ以テ記名捺印ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルコト
ト爲レリ人々

以上ヲ以テ爲替手形ノ要件ノ大體ヲ説明シタリ然ルニ手形法ノ規定ニ依リ以
上ノ要件中多少ノ變化ヲ受タルモノアリ隨テ手形ノ形式ニ變動ヲ生スルコト
アリ又振出人ノ權利トシテ手形ノ成立要件以外ニ一定ノ事項ヲ記載シ以テ手
形上ノ效力ヲ生セシメ得ヘキ記載事項アリ其他手形當事者ノ複數タリ得ルヤ
否ヤ等尙ホ手形ノ振出ニ伴ヒテ説明ヲ要スヘキ事項少カラズ以下順次ニ其大
要ヲ講述スヘシ

(一) 手形當事者ノ資格ノ合併

手形當事者ノ資格ノ同一人ニ歸著スル場合ニアリ一ハ振出人ト支拂人トカ同
一人ナルモノニハ振出人ト受取人ト同一人ニ歸著スル場合はナリ(第四四七條
イ) 支拂人ハ振出人ト異ナルヲ常トスト雖モ又往往同一人ニシテ振出人ト支
拂人トヲ兼スルコトアリ(第四百四十七條後段)ノ規定ヲ以テ此種ノ手形ヲ認メ

タリ此種ノ手形ノ經濟上ノ利益ハ例ヘシ商人カ本店ト支店ト有スル場合ニ其商號共ニ同一ナルトキ本店ト支店トノ間ノ支拂ヲ結了スルニ便ナリ又振出人カ他日自ラ支拂地ニ赴キテ支拂ヲ爲サントスルトキハ自己ノ名ヲ以テ支拂人トシテ記載スルコト便利ナリ

(ロ) 受取人ト振出人トハ異ナルヲ原則トスルモ又同一人ニ其資格合併スル場合アリ第四百四十七條前段ニ此種ノ手形ヲ認ム此種ノ手形ハ振出人カ支拂人ノ債權者ニシテ其債務ノ履行ヲ手形債務トシテ履行ヲ求メントスルトキハ自己ヲ受取人トシテ手形ヲ發行シ自ラ受取人トシテ支拂人ニ對シ其手形ノ引受ヲ求ム然ルトキハ引受アル手形ハ其引受ナキ手形ヨリ容易ニ賣却スルコトヲ得又振出人ハ其手形ハ既ニ引受アルヲ以テ他日擔保ノ請求ニ應スルノ虞ナシ是レ利益アル一例ナリ

(二) 振出人カ爲替手形ニ記載シ得ル要件以外ノ事項

爲替手形ノ要件以外ニ於テ振出人カ爲替手形ニ記載シテ手形上ノ效力ヲ生セシメ得ル事項トハ豫備支拂人第四四八條支拂擔當者第四五三條及ヒ支拂地ニ

ニ述ブルカ如シ然レトモ其外形ノ形ヲ以テ權利ノ本質ヲ明カニスルヲ得ス權利ノ本質ヲ明カニスルニハ更ニ其内容ヲ論ズルコトヲ要ス權利ノ内容ハ即チ利益ナリ然レトモ此所謂利益トハ必スシモ權利者ノ主觀ニ於ケル利益ニ非ス法律上ノ利益ナリ法カ權利者ノ利益トシテ認ムル所ノモノハ是ナリ學者カ往往利益ヲ以テ權利ノ要素ト爲スコトヲ否ムモノアルハ此區別ヲ認識セサルノ誤ニ出ツルモノナリ

利益ハ固ヨリ主觀的ノ觀念タリ客觀的ノ存在ヲ有スルモノニ非ス然レトモ特定ノ時代特定ノ社會ニ於テ其多數ノ人類カ利益トシテ思考スル所ノモノハ共通ノ思想トシテ存在スルコトヲ得ヘシ之ヲ稱シテ平均利益ト謂フコトヲ得恰モ美ト謂ヒ德義ト謂フモ純然タル主觀的ノ觀念ナルニ拘ハラズ多數人類ノ共通ノ思想トシテ美又ハ德義ノ存在ヲ思考シ得ヘキカ如ク利益ノ觀念モ亦各個人ノ主觀ヲ離レテ之ヲ思考シ得ヘシ法ハ此平均利益ヲ認メテ以テ法律上ノ利益ト爲ス法律上ノ利益ハ以テ權利ノ内容ヲ成ス權利者ノ各自ニ於テ其レヲ利

益トシテ思考スルヤ否ヤ以テ問フ所ニ非アルナリ。蓋シテ自ニ其ノ私利ヲ謀ルニ依リテ生スル權利ノ存在ハ法ノ存在ヲ以テ前攝スルニ依リテ始メテ付與セラルルモノアリ然レトモ總テノ權利カ皆法ニ依リテ作ラルルニ非ス人類ハ自然ニ於テ既ニ種種ナル意思ノ力ヲ有ス唯其力カ法ニ依リテ承認セラルルマテハ其力ハ單ニ自然ノ事實タルニ過キス此自然ノ事實カ法ニ依リテ承認セラルルニ依リテ始メテ法律上ノ權利タルナリ。

第二節 公權ノ觀念

權利ニ公權ト私權トノ區別アリ、此區別ハ法ニ公法ト私法トノ區別アルニ相當ス。私法ニ依リテ認メラレタル權利ハ私權ニシテ、公法ニ依リテ認メラレタル權利ハ公權ナリ。而シテ公法ハ國家ト臣民トノ間ニ於ケル統治關係ヲ規定スルニ

法ナルガ如ク公權ハ國家ト臣民トノ統治關係ニ於テ國家若クハ個人ノ有スル意思ノ力ナリ。

公權ノ觀念ハ國法学ノ諸ノ現象中最モ遲ク發達シタルモノニシテ今日ニ於テモ學說ノ最モ一致セザルモノノ一ナリ。最モ甚シキハ、ホルンハックノ如ク全ク公權ノ存在ヲ否認シ個人ハ國家ニ對シテ全ク公權ヲ有スルコトヲ得スト云フ者ストラアルニ至レリ。

然レトモ公權ノ存在ヲ否認スルハ取リモ直サズ公法ノ存在ヲ否認スルモノナリ。凡テ法ハ意思ノ力ノ及フベキ限界ヲ限ヤルモノナリ、公法ハ國家ト臣民トノ間ニ於テ其ノ意思ノ力ヲ制限ス、言ヒ換フレバ公法ハ國家ノ權力ノ發動ヲ制限スルモノナリ。公法ニシテ存在スル以上ハ國家ノ權力ハ最早無制限ナル權力ニハ非ラズシテ、一定ノ限界ヲ有スル意思ノ力ナリ。此ノ限界ノ以上ニ於テハ國家モ臣民ノ意思ヲ侵害スルコトヲ得ズ。即チ國家ノ權力ノ公法ノ規定ニ依リテ事實上ノ權力ヨリ變シテ法律上ノ權利トナリ、國家ト臣民トノ關係ハ事實上ノ權力服從ノ關係ヨリ變ジテ法律上ノ權利關係トナルナリ。

公權ノ存在ヲ否認スルハ專制時代ノ遺想ナリ、專制時代ニ於テハ臣民ハ無制限ニ國家ノ權力ニ服從シ、國家ニ對シテ意思ノ獨立ヲ主張シ得ベキ何等ノ力ヲモ有セザリキ、此ノ如キ時代ニ於テハ公法モナク又公權モナシ然レドモ國家ガ法規ヲ以テ其ノ權力ノ行動ヲ規定シ、法規ニ依ルニ非ラザレハ臣民ニ對シテ義務ヲ命ズルコトナキニ至リテハ、臣民モ亦國家ニ依リテ侵サレザル意思ノ自由ノ範圍ヲ得。是ニ於テカ公法アリ隨テ又公權アルナリ。國家ノ對シテ公權ヲ有スルコトヲ得ズトイフハ誤ナリ。國家ガ簡人ニ對シテ公權ヲ有スルコトヲ得ズト云フモ正當ノ見解ニ非ラズ。國家ハ固ヨリ無限ノ統治權ヲ有スト雖モ國家ガ自ラ其意思ノ力ヲ制限シ法規ヲ以テ其ノ權力ノ行動ヲ規定スルニ依リ統治權ハ無限ノ實力ヨリ變ジテ法律上一定ノ限界アル權利ト爲ルモノナリ。國家ハ固ヨリ何時ニテモ其法規ヲ變更スルコトヲ得ルヲ以テ統治權其モノハ決シテ一定ノ限界ヲ有スルモノニ非ラズ、然レドモ法規ノ秩序ノ下ニ於テハ統治權ハ法律上一定ノ限界アリ

ル意思ノ力ナリ。隨テ國家モ亦臣民ニ對シテ公權ヲ有スト云フコトヲ妨ケズ。公權ハ國家ト臣民トノ關係ニ於ケル意思ノ力ナルコトハ前述ノ如シ然レドモ公權ト私權トノ區別ハ公法ト私法トノ區別ガ不明ナルガ如ク必ズシモ之ニ依リテ精密ナル標準ト爲スコトヲ得ズ。就中財產關係ニ於ケル權利モ亦公權タルコトヲ妨ゲザルヲ以テ國家ノ臣民ニ對スル財產權及ビ臣民ノ國家ニ對スル財產權ニ付テ殊ニ其ノ公權タルヤ或ハ私權タルヤノ疑ヲ生ズ。ゾームハ公權ト私權トノ區別ヲ說イテ一刀兩斷的ニ公權ハ權力關係ニ基ク權利ニシテ私權ハ財產關係ニ基ク權利ナリト定義セリト雖モ、此定義ハ明カニ誤レリ。權力關係ト財產關係トハ相反對スル觀念ニ非ラズ、數多ノ權利ハ權力關係又ハ財產關係ノ何レニモ屬セザルモノアルノミナラズ權力關係ニ屬スルモノニシテ而モ公權ニ非ザルモノハ甚ダ多シ、例ヘバ親族權ハ權力關係ナルニ拘ラズ毫モ公權ノ性質ヲ有セザルコトハ疑ナキノミナラズ其他一人ガ他一人ニ對シテ權力關係ヲ有シ而モ全然私法ノ區域ニ屬スルモノ決シテ尠少ナカラズ。又一方ニ於テハ財產關係ト雖モ必ズシモ私權關係ノミナラズ財產權ニシテ然カモ權力關係ニ

屬スルモノ甚ダ多シトス例ヘバ國家ノ租稅徵收權ハ權力的タルト同時ニ財產權ニ屬スルモノナリ。

右ノ如ク公權私權ノ區別ガ權力關係タルト否ト財產權タルト否トニ依リテ之ヲ決スルコトヲ得ズトセバ別ニ此ガ標準ヲ求メザルベカラズ然レドモ之ニ正確ナル標準ヲ求ムルハ極メテ困難ナリ。加之國家ハ往往性質上公權ニ屬スルモノニシテ然カモ私權トシテ之ヲ取扱ヒ若クハ性質上私權ニ屬スベキモノニシテ然カモ公權トシテノ特別ノ保護ヲ與フルコトアルガ故ニ現行法ノ下ニ於テ或權利ガ公權タルヤ私權タルヤハ必ズシモ其性質ニ依リテ之ヲ決スルコトヲ得ズ。此故ニ公權ハ實質上ノ公權ト形式上ノ公權トニ區別スルコトヲ得ベシ形式上ノ公權トハ現行法上ノ公權ニシテ即チ性質上公權タルト私權タルトヲ問ハズ現在ノ國法ノ下ニ於テ公權ト看做サルルモノヲ謂フ。實質上ノ公權トハ現在ノ國法ノ下ニ於テ之ヲ如何ニ取扱フモ性質上公權タルモノヲ謂フ。形式上ノ公權ト私權トノ區別ニ至リテハ一ニ國法ノ規定ニ依リテ之ヲ決セザル可ラザルナリ。

實質上ノ公權即チ現在ノ國法ノ規定如何ニ拘ラズ論理上ニ私權ト公權トヲ區別スベキ標準ニ至リテモ亦必ズシモ容易ノ問題ニ非ラズ。然レドモ公權ハ公法ニ基ク權利タリ私權ハ私法ニ基ク權利タリトイフニ依リテ既ニ之ガ大體ノ標準ヲ求ムルコトヲ得ベシ。公法ハ統治權ノ發動ヲ制限スルノ法ナリ隨テ公權ハ統治權ノ發動ニ制限ヲ加フルニ依リテ生ジタル權利ナラザルベカラズ。公權ト私權トノ區別ノ標準ハ之ヲ措テ他ニ之ヲ求ムルコトヲ得ズ。

此故ニ國家ノ臣民ニ對スル權利ニ付テハ其ノ統治權ノ發動ニ基ク所ノモノハ財產權ト雖モ尙ホ公權タリ統治權ニ關係ナク私人ト對等ノ地位ニ於テ有スル所ノ權利ハ私權タリ。

臣民ノ國家ニ對スル權利モ亦之ト同ジク國家ノ統治權ニ對スル關係ヨリ生ズル權利ハ公權ナリ之ニ反シテ統治權トハ關係ナク對等ノ地位ニ於テ有スル所ノ權利ハ假令國家ニ對スル權利ト雖モ尙ホ私權ナリ。

例ヘバ官吏ノ俸給ヲ受タルノ權利議員ノ歳費ヲ受タルノ權利公用徵收ヲ受ケタル者ガ賠償ヲ受クルノ權利ハ皆國家ノ統治權ニ對スル關係ヨリ生ジタルモ

ノナルガ故ニ財産權ナリト雖モ公權ナリ。學者ハ往往簡人ノ權利ガ主トシテ國家ノ公益ノ爲メニ與ヘラルルト主トシテ簡人ノ利益ノ爲メニ與ヘラルルトニ依リテ公權ト私權トヲ區別スルガ爲メニ與ヘラルトスル者アリ然レドモ權利ハ常ニ權利者ノ利益ヲ保護スルガ爲メニ與ヘラル、而シテ權利者ノ利益ヲ保護スルハ同時ニ又國家ノ利益ニ適合スル所以タリ。此ノ點ニ於テハ公權ト私權トニ依リテ異ナル所ナシ。利益ノ性質ニ依リテ公權ト私權トヲ區別セントスルハ決シテ其ノ當ヲ得タルモノニ非ラズ。例ヘバ官吏ノ俸給ハ官吏ノ利益ノ爲メニ與ヘラルルモノニ非ラズシテ主トシテ國家ノ利益ノ爲メニ與ヘラルルモノナリトイフヲ以テ俸給ノ請求權ガ公權ナリトイフノ理由ト爲スガ如キハ、多クノ學者ノ試ミタル所ナリト雖モ、俸給ガ主トシテ國家ノ利益ノ爲メニ與ヘラルトイフハ根據ナキノ臆斷タリ、俸給モ亦經濟上ノ勞銀ト同ジク官吏自身ノ利益ノ爲メニ與ヘラルルモノナルコトハ、權利ハ自己ノ利益ヲ主張スル意思ノ力ナリトイフ定義ヨリ生ズル當然ノ結果タルモノナラズ、又俸給ガ所得稅賦課ノ目的タリ、財産差押ノ目的タリ得ベキコトニ於テ

ル礦物ノ存在スルコトヲ證明シテ之ヲ爲ス特許ハ出願日時ノ先後ニ依リテ之ヲ許否ス採掘カ無主物ノ先占ナル性質ヨリ之ヲ論スレハ特許ヲ受クル權ハ礦物ノ發見ニ因リテ發生シ最初ニ發見セル者ニ特許ヲ與フヘキナリ然レトモ發見ノ先後ハ之ヲ判定スルコト容易ナラスシテ爭ノ原因ト爲ルヲ以テ暫ク便宜ニ從ヒ先願ヲ以テ特許ヲ受クルノ要件ト爲セルモノナリ、試掘ノ認可若クハ採掘ノ許可ハ官廳カ公益ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ拒ミ又ハ取消スコトヲ得ルモノトス

特許ヲ得タル礦物採掘權ハ賣買讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得然レトモ賣買讓與ハ特許證ノ書替ヲ受クルコトヲ以テ其法律上ノ效力ヲ生スル要件ト爲ス、他人ノ試掘ノ年限中ハ其試掘地内ニ於テ同一ノ礦物ニ付テ採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス又他人ノ試掘又ハ採掘地内ニ於テ其試掘人又ハ採掘人カ未タ認可又ハ特許ヲ得ナル礦物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セントスルトキハ試掘人又ハ採掘人ノ承諾ヲ得ヘキモノト爲ス、其他礦業ヲ爲スニハ公益上種種ノ制限ヲ受ク例ヘハ法律ニ定メタル一定ノ場

所ニ於テハ試掘又ハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス。其ノ官廳ニ差出シ認可ヲ受ケ之ニ依ルニ非テハ探掘ヲ爲スコトヲ得ザルモノト爲ス其案カ坑内保安ニ害アリトスルトキハ官廳ハ其改正ヲ命スルコトヲ得施業案又ハ改正案ヲ一定期限内ニ差出ササルトキハ探掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得又鑛業ヲ一箇年以上休業シ若クハ探掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ著手セザルトキハ特許ヲ取消スコトヲ得其他鑛業條例ハ鑛業人ノ種種ノ義務ヲ規定セリ

鑛業ヲ獎勵スル爲メニ法律ハ試掘又ハ探掘ヲ出願スル目的ヲ以テ他人ノ土地ヲ測量シ又鑛業上必要アル場合ニハ損害ヲ賠償シテ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得ルモノト爲ス。鑛業ヨリ生スル危害ヲ豫防スルヲ鑛業警察ト爲ス鑛業警察ハ坑内及ヒ建築物ノ保安鑛夫ノ生命及ヒ衛生上ノ保安地表ノ安全及ヒ公益ノ保護ヲ目的ト爲ス。鑛業條例ハ鑛業ニ使役スル鑛夫ノ使役ニ關スル取締ノ規定ヲ爲セリ。

砂金砂錫及ヒ砂鐵ノ砂鐵ノ採取ニ關シテハ明治二十六年三月法律第十號砂鐵採取法ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ砂鐵ヲ採取セントスル者ハ許可ヲ受クルコトヲ要ス此許可ハ一般鑛業ノ特許ト異ナリ私權ヲ付與スル處分ニ非シテ公益上警察ノ目的ノ爲メニスル許可ナリ何トナレハ砂鐵採取法ハ砂鐵ヲ以テ國ノ所有トセスシテ土地所有者ニ屬スル利益ト爲シ土地所有者ハ他ニ先チテ許可ヲ受クルノ權ヲ有ス他人ノ所有地ニ於テ採取セントスルトキハ所有者ノ承諾ヲ受ケ其請求ニ應ジテ相當ノ採取料ヲ支拂ハサルヘカラス其他砂鐵採取法ハ出願ノ許否許可ノ取締採取人ノ權利義務等ニ關シテ鑛業條例ト大同小異ノ規定ヲ爲セリ。

第七節 商工業

商工業ヲ概稱シテ之ヲ營業ト謂フ營業ナル語ニハ廣狹ノ二義アリ廣義ニ於テ營業トハ之ニ依リテ利益ヲ獲得スルノ目的ヲ以テ營マルル總テノ獨立ニシテ繼續ナル經濟的活動ヲ謂フ狹義ノ營業ハ廣義ノ營業ヨリ原始產業ヲ除キ又

自家所用ノ爲メニスルモノヲ除ク予カ越ニ謂フ營業トハ狹義ノ營業ニシテ通俗ニ商工業ト云フニ相一致セリ

第一 營業警察
近世諸國ノ營業ニ關スル法規ハ營業ノ自由ナルコトヲ原則ト爲ス營業自由ノ原則ハ歐羅巴諸國ノ憲法ニ於テ明言スル所ノ臣民ノ自由權ノ一ナリ蓋シ營業自由ノ宣言ハ其他ノ各種ノ自由ノ宣言ノ如クニ中世ニ於テ受ケタル營業ニ對スル諸種ノ制限ヲ排除スルノ主義ヲ有ス然レトモ營業モ公益ノ目的ノ爲メニ行政上之ヲ制限セザルコトヲ得ス營業ニ關スル行政法ノ規定ハ此制限ヲ掲クルモノナリ我國ニ於テハ憲法ニ於テ營業ノ自由ヲ明定セス故ニ營業ノ制限ハ命令ヲ以テ隨意ニ之ヲ規定スルコトヲ得ルモノトス
營業警察ハ大略次ノ如シ
(一) 或種類ノ營業ハ絕對的ニ之ヲ營ムコトヲ禁止ス例ヘハ猥褻ナル圖書ヲ陳列、販賣シ不熟ノ果實ヲ販賣スルカ如キ是ナリ又郵便、電信ノ事業、貨幣鑄造ノ事

業ノ如キハ公益上之ヲ國家ノ專業トシ其結果トシテ私人カ之ヲ營ムコトヲ禁止ス國家カ收入ヲ得ルノ目的ノ爲メニスル專業ニ付テモ亦私人カ同種ノ營業ヲ爲スコトヲ禁止ス

(二) 或種類ノ營業ハ之ヲ營ムコトヲ得ル者ヲ制限シテ一般ノ私人カ自由ニ之ヲ營ムコトヲ禁止ス即チ一定ノ私人ニ一定ノ營業ノ獨占權ヲ與フル場合はナリ斯ル法制ノ目的ハ或ハ經濟上ノ保護獎勵ノ爲メナルコトアリ或ハ公益ヲ保護スルカ爲メナルコトアリ

(三) 或種類ノ營業ハ之ヲ爲スニ許可ヲ要スルモノト爲ス許可ハ公益ノ目的ノ爲メニ一般ニ許サレサル營業ヲ之ヲ營ム人場所設備ヲ審査シテ特定ノ場合ニ之ヲ爲スコトヲ得セシムル公益保護ノ警察上ノ手段ナリ

(四) 或種ノ營業ハ之ヲ開始スルニ届出ヲ爲スコトヲ要スルモノト爲ス届出モ亦公益ノ爲メニ其營業ヲ監視スル目的ヲ有スル警察上ノ手段ナリ

(五) 營業ノ開始ニ際シ許可又ハ届出ヲ必要トスル營業ハ又其營業ニ關シテ官廳ノ監督ヲ受ク而シテ其營業ノ方法カ公益ヲ害シ又ハ當初許可ヲ與ヘタル條

件ニ違反スルカ如キコトアリタルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ禁止シ若クハ許可ヲ取消スコトヲ得

(六) 或種ノ營業ハ其之ヲ爲ス方法設備場所等ニ付テ一定ノ制限ヲ設ク

其他所謂道路營業即チ人力車、牡馬車等道路ニ於テスル交通業、道路ニ於テスル露店ノ營業、市内配達業、大道見世物、大道音樂師等ノ如キモノハ許可ヲ要スルモノトシ其他諸種ノ道路警察其他ノ警察上ノ制限ヲ受ク

第二 營業組合

營業組合ハ同業者互ニ共同ノ利益ヲ圖リ又營業上ノ取締ヲ爲シ及ヒ信用ヲ維持スルカ爲メニ設立スル組合ナリ營業組合ハ其目的ハ國家ノ目的ニ合シ行政法上所謂公共組合ニシテ自治公共團體ノ一種ニ屬ス凡ソ自治ハ地方行政ニ關シテ發達シタル觀念ナルモ人民ノ福利ヲ増進セシカ爲メニ自治ノ精神ヲ地方行政以外ニ及ホシテ一定ノ産業ニ從事スル者ヲシテ一ノ團體ヲ形造ラシメ之ニ國家ノ事務タル此等ノ産業ノ保護ト取締ト事務トヲ自己ノ事務トシテ便宜處理スル權利ト義務トヲ有セシメ以テ國家行政ノ目的ヲ達スル一方便ト爲テ

シトスルモノニ即チ營業組合ナリ故ニ營業組合ハ私法上ノ法人タルニ止マラス其事務ハ自己ノ事務ナルト同時ニ國家公共ノ事務ニシテ國家ニ對シ義務トシテ之ヲ處理セサルヘカラス而シテ其之ヲ處理スルカ爲メニハ組合ニ對シテ命令權ヲ有ス法人タルト同時ニ國家ノ機關ナリ
我國ニ於テ營業組合ニ關スル法規ハ未タ一般ニ定メラレタルモノナク唯明治三十三年三月法律第三十五號重要物產同業組合法明治三十三年二月法律第二十號產牛馬組合法等ノ規定アルノミ重要物產同業組合ハ重要物產ノ生産製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス同業者又ハ密切ノ關係ヲ有スル營業者カ相集リテ組織スルモノニシテ其目的ハ共同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其利益ヲ増進スルニ在リ產牛馬組合ハ牛又ハ馬ノ生産ニ從事スル者ヲ以テ組織シ牛馬ノ改良及ヒ組合員共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ其目的トス此等ノ組合ハ其設置ハ之ヲ隨意ト爲スモ一定ノ數ノ營業者ノ同意ヲ得テ設置セルトキニハ其地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者其組合ニ加入スルノ義務ヲ負フモノト爲ス

第三 工業

工業トハ原始産業ヲ精製シテ其價額ヲ増加スル營業ヲ謂フ工業ニ關スル行政ノ作用ハ一ニハ其保護獎勵ヲ目的トシテ行ハレ工業學校工業試驗場工業品展覽會模範製作場等ノ諸般ノ設備ハ此目的ニ出ツルモノナリ又工業ノ發達ヲ保護スルカ爲メニ輸出工業品ノ生産ニ補助金ヲ與ヘ拂戻税ノ制度ヲ設ケ輸入工業品ニ高キ關稅ヲ課スル等直接間接ノ制限ヲ設クルモノアリ又工業上ノ發明、發見ヲ獎勵スルカ爲メニ發明者發見者ニ其專用權ヲ付與シ其他意匠、商標ヲ保護スルモノノ商工業獎勵ノ目的ニ出ツルモノナリ

工業ノ活動ヲ私人ノ自由ニ放任スルトキハ或ハ利益ノ調和ヲ損ヒ工業ノ圓滑ナル發達ヲ妨ケントスルニ至ル虞アリ之ヲ防止スルカ爲メニ國家ハ警察的ノ手段ヲ用フルヲ要スルニ至ル此ノ如キコトハ特ニ之ヲ所謂近時ノ勞動者問題ニ見ル所ナリ勞動者保護ノ法規ハ工業ノ發達ヲ保護スルカ爲メニ極メテ必要ナルコトニ屬ス

工業ニ關シテハ其獎勵ノ目的ヲ有スル發明ノ特許、意匠、商標著作權ノ登錄ニ關スル規定等其保護ノ目的ヲ有スル勞動者ノ保護ノ規定ヲ説明スヘシ

(甲) 發明ノ特許、意匠、商標、著作權ノ登錄

工業上ノ發明ヲ爲シタル者其發明シタル物品及ヒ方法ノ利用ヲ獨占スル權利ハ之ヲ專賣權ト名ク專賣權ハ私法上ノ權利ナリ其權利ノ性質、效力ノ如何ハ私法上ノ問題ニ屬ス然レトモ工業上ノ發明ヲ爲シタル者ニ此ノ如キ權利ヲ付與スルハ行政官廳ノ處分ニ待テ其目的モ亦其發明者ノ利益ヲ保護スルコトニ依リテ工業上ノ發明ヲ獎勵セントスル公益ノ目的ニ出テ此權利ノ付與ニ關スル規定ハ行政法規ノ一部ナリ

專賣權ヲ付與スル行政官廳ノ處分ヲ特許ト名ク特許ハ專賣權ナル私權ヲ設定スル效果ヲ有スル處分ナリ或ハ專賣權ヲ以テ發明ノ事實ニ當然伴ヒテ發生スル權利ニシテ特許ハ唯之ヲ公ニ確認スルニ過キスト爲ス者アリ又發明ト共ニ不完全ニ發生シタル權利ヲ完成スルモノナリト爲ス者アリ然レトモ明治三十二年三月法律第三十六號特許法ハ發明ノ事實ヲ以テ直チニ專賣權發生ノ原因ト爲ナス又之ト共ニ不完全ニ發生シタルモノト爲ナス特許ニ依リテ其發明シタル物品ヲ製作用販賣若クハ擴布シ其方法ヲ使用若クハ擴布スルノ權

業有スルモノト爲ス固ヨリ特許ヲ受ケルハ發明者ニ屬スル權利ニシテ法律ニ
 工業上ノ物品及ロ方法ニ關シテ最先ノ發明ヲ爲シタル者若クハ其承繼人ハ此
 法律ニ依リテ特許ヲ受ケルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ然レトモ違フ特許ヲ受ケ
 ルノ權利ナルヲ以テ國家ニ對シテ有スル私人ノ公權ニシテ專賣權其モノニヤ
 非サルナリ而シテ此公權ハ發明ノ事實ニ依リテ直チニ發明者ノ爲メニ存スル
 所ナリ此ノ如ク發明ノ事實ヲ以テ特許ヲ受ケル公權發生ノ原因ト爲スカ故ニ
 特許ハ之ヲ受ケル公權ヲ有スル者即チ最先ニ發明ヲ爲シタル者ニ之ヲ與ヘテ
 ルヘカラス特許ヲ出願シタル者アルトキハ其果シテ最先ノ發明ナリヤ否ヤヲ
 審査シテ之ヲ與フ國ニ依リテハ或ハ通告又ハ届出ノ先後ニ依リテ特許ヲ與ヘ
 又ハ出願アリタルトキハ之ヲ公示シテ異議ノ申立ヲ爲サシメ異議ノ申立アル
 トキハ發明ノ先後ヲ審査スルモノモアリ我國法ノ採ラサル所ナリ然レトモ我
 國ニ於テハ其發明カ果シテ工業上ニ利用スヘキモノナリヤ否ヤ即チ特許ヲ與
 フルノ價值アリヤ否ヤノ點ニ至ルマテハ之ヲ審査スルコトナク唯發明ノ先後
 ヲ審査スルノミ然レトモ特許ヲ受ケルコトヲ得ル發明ハ一定ノ要件ヲ具フル

コトヲ要シ其制限ハ法律ニ之ヲ定ム即チ一ニハ新シキ發明タルコトヲ要ス特
 許ノ出願前ニ公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタル物ハ特許ヲ與フルコトナシ但
 試験ノ爲メ二箇年以内公ニ知ラレタル物ハ此限ニ非ス二ニハ法カ特許ヲ受ケ
 ヘキ範圍内ニ置ク物ニ非サルコトヲ要ス飲食物嗜好物醫藥又ハ其調合法公ノ
 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノハ特許ヲ與フルコトナシ此等ノ要件ヲ具フル
 最先ノ發明者ハ前述ノ如ク特許ヲ受ケル公權ヲ有スルヲ以テ行政官廳ハ其
 出願ヲ査定シテ之ニ特許ヲ與ヘサルヘカラス特許ハ特許證ニ依リテ之ヲ付與
 ス若シ之ヲ與フヘカラスト爲ストキニハ其査定書ヲ交付ス査定ニ不服ナル者
 ハ再査定ヲ請求スルコトヲ得再査定ニ不服ナル者ハ特許局ノ審判ヲ求ムルコ
 トヲ得若シ其不服カ其審決ニシテ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコト
 ヲ理由トスルモノナルトキハ大審院ニ出訴スルコトヲ得ルモノト爲ス特許ニ
 因リテ得タル權利ハ十五年ヲ以テ存続期間トシ制限ヲ付シ又ハ付セズシテ讓
 渡シ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ルモノトスルニ關シテ
 特許ニ因ル發明ノ專賣權ト其性質ヲ同シスルモノ登録ニ因ル意匠ノ專用權

アリ工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色彩又ハ其結合ニ保ル新規ノ意匠ヲ案出シタル者ハ意匠ノ登録ヲ受ケテ之ヲ專用スルノ權利ヲ有ス發明ノ場合ニ於ケル特許ハ意匠ニ在リテハ登録ノ形式ヲ以テ顯ハル然レトモ其性質ハ均シク特許ニシテ即チ私權ヲ設定スルノ處分ナリ其之ヲ求ムル公權ハ意匠ノ案出ニ因リテ發生ス然レトモ意匠ニ在リテハ發明ノ場合ト異ナリ便宜ヲ主トシテ出願ノ前後ニ依リテ登録ヲ爲ス(明治三十二年三月法律第三十七號意匠法)自己ノ商品ヲ表彰スルカ爲メニ商標ヲ專用セントスル者ハ其登録ヲ受ケテ之カ專用權ヲ有スルコトヲ得商標ノ登録ハ出願ノ前後ニ依ル(明治三十二年法律第三十八號商標法)著作權モ亦所謂精神的所有權又ハ工業所有權ト稱スル權利ノ一種ニシテ其性質ハ發明意匠ノ專用權ト相同シ明治三十二年法律第三十九號著作權法ハ文書、演述、圖畫、彫刻、模形、寫真、其他文藝學術若クハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作人ハ其著作物ヲ複製スルノ權ヲ有スル旨ヲ規定セリ即チ本法ノ定ムル所ニ依レハ著作權ハ著作人ニ因リテ直チニ發生シ行政官廳ノ特許ヲ經ルコト發明

意匠ノ專用權ノ如クナラス然レトモ著作權者ハ著作權ノ登録ヲ受ケテレハ僞作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ナルモノト爲ス故ニ本法ハ著作權ノ場合ニ於テハ登録ハ權利公認ノ處分ニシテ權利設定ノ處分ニ非スト爲ス者アリ然レトモ所謂著作權ナルモノハ一種ノ對世權ニシテ其作用ハ一般世人ニ依リテ侵害セラレタルニ在リ即チ其權利ノ内容ハ之ヲ具體的ニ言ヘハ他人ノ僞作ヲ排斥スルコトニ在リ故ニ之ヲ登録スルニ非ナレハ他ニ僞作者アルトキト雖モ之ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得スト爲スハ結果ニ於テ更ニ異ナルコトナシ登録ヲ以テ此場合ニモ著作權設定ノ處分ナリト爲スモ又ハ權利公認ノ處分ナリト爲スモ其實際上ノ結果ハ同一ナリ

(乙) 勞働者ノ保護

廣ク勞働者ト云フハ勤勞殊ニ肉體の勞力ニ對スル賃銀ノ取得ヲ以テ其生活ノ資料ト爲ス者ヲ謂フ今日ノ經濟社會ニ於テハ勞働者ノ階級ハ實ニ諸般ノ經濟的活動殊ニ工業ニ在リテ重要ノ地位ヲ存ス近世ノ法律制度ハ各人ノ經濟的活動ノ自由ヲ以テ原則トシ勞働ニ付テモ何等ノ檢束ヲ加ヘサルコトヲ以テ趣

旨ト爲ス故ニ勞動者カ企業家ヨリ一定ノ賃銀ヲ得テ之ニ對シテ勤勞ヲ提供セントスル勞動契約ハ私法ノ範圍ニ屬ス然レトモ企業家ニ對スル勞動者ノ關係ハ諸般ノ經濟生活ノ關係ニ於ケルト同シク當事者ノ自由ニ私法ノ法則ニ從ヒテ約束スルニ放任スルハ公益ヲ目的トスル國家行政ノ目的ニ反ス蓋シ勞動契約ヲ結ヒ又之ヲ廢棄スルノ法律上ノ自由ハ勞動者ノ爲メニハ事實上重大ナル不自由ナリ何トナレハ勞動者ハ其得ル給料ヲ以テ唯一ノ生計ノ資料ト爲スカ故ニ企業家ニ對シテ對等ノ地位ヲ保テ以テ契約ヲ締結スルコトヲ得ス已ムヲ得ス企業家ノ言フ所ニ從ヒ企業家ノ指定スル條件ニ依リ企業家ノ定メタル額ノ賃銀ヲ以テ満足シテ其契約ヲ爲ササルヘカラス法律ノ表面ニハ對等ナルヘキ企業家ニ對シテ事實ノ上ニ於テハ服從セサルヘカラサルノ狀態ニ在ルヲ以テ工業上ノ實際上ノ有様ト爲ス即チ放任主義ノ經濟學者カ夢想スル利益ノ調和ハ之ヲ私人ノ自由ニ放任スルコトニ由リテ得ルコトヲ得スシテ却テ厭フヘキ反對ノ結果ヲ惹起ス殊ニ此ノ如キ有様ハ機械ヲ使用シ大仕掛ヲ以テ經營セラルル工業ニ於テ特ニ其甚シキヲ見ル近世ニ所謂勞動問題又社會問題ハ此勞

働者カ法律上自由ニシテ事實上不自由ナル有様ハ如何ニシテ救済スルコトヲ得ヘキヤヲ問題トスルモノナリ左レハトテ共有財產共同企業ヲ目的トスル社會主義ハ到底行フヘクモアラス自由ノ原則ハ之ヲ認メテ適當ナル制限ヲ國家ノ力ヲ以テ加ヘ勞動者ヲシテ眞ノ自由ヲ得セシムルハ政策ノ宜キヲ得タルモノト謂ハサルヘカラス此見地ヨリシテ國家ハ不利益ナル勞動契約ニ因リテ其内體精神ノ發達ヲ妨ケ自ラ保護シ自ラ助ケルノ手段ヲ有セサル勞動者ヲ保護セサルヘカラス即チ之カ爲メニ行政法ハ企業家ノ一定ノ義務ヲ規定シ勞動契約ヲ制限スルコトヲ要ス又勞動者ノ疾病災害等ノ場合ニ於ケル自活ノ方法ヲ豫メ具フルモ亦勞動者保護ノ爲メニ國家ノ將ニ力ムヘキ所ニ屬ス

我國ニ於テハ勞動者ノ保護ニ關スル一般ノ規定カ未タ存在セス工場法其他勞動者保護ノ法規ヲ制定スルノ必要ハ識者ノ夙ニ切ニ論スル所ナリト雖モ未タ其成果ヲ見ルニ至ラズ獨逸ハ「ビスマ」クノ畫策ニ因リテ早ク社會政策的ノ施設ヲ試ミ勞動者保護ノ行政法規カ稍ヤ具ハルヲ見ル令獨逸ノ勞動者保護ノ法制ノ大要ヲ左ニ述フヘシ

勞働者ノ保護ニ關スル一般の法規ハ獨逸帝國工業條例ノ規定スル所ナリ工業條例ハ千八百七十八年ノ改正追加ニ因リテ大ニ勞働者保護ノ完全ナル規定ヲ爲スニ至レリ其一般勞働者ノ保護ニ關スル規定ノ重ナル項目ヲ舉テレハ第一 實物支拂ノ禁止、即チ勞働者ノ賃金ハ通貨ヲ以テ支拂フコトヲ要ス

第二 日曜日及ヒ祭日ニ於テ勞働セシムルコトヲ禁止スルコト

第三 企業家ハ自己ノ費用ヲ以テ勞働者ノ生命健康ニ對スル危險ヲ防制スルニ必要ナル設備ヲ爲スヘキコト

第四 一定年齢以下ノ少年勞働者ハ從業時間ヲ制限シ其從事セシムルコトヲ得ル仕事ヲ制限スル等其他ノ保護ヲ爲スコト

第五 徒弟契約ニ基ク徒弟ハ親方ノ親權の監督ニ屬シ親方ハ徒弟ニ對シ相當ノ教育ヲ與フヘク又其使役ニ因リテ教育ヲ受クルヲ妨クヘカラサルコト

第六 婦人勞働者ニ對シテ其從事セシメ得ル仕事ヲ制限スル等其他ノ保護

要トスルコトノ二是ナリ其他ノ條件ニ付テハ各國ノ法律各相異ナレリ我國籍法第七條ニ依レハ外國人カ歸化ヲ爲スニハ左ノ五箇ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要ト爲セリ

第一 歸化出願者カ滿二十年以上ニシテ其本國法ニ從ヒ行爲能力ヲ有スルコト

歸化ハ元來民法上ノ法律行爲ニ非ス一ノ公法上ノ關係ナルカ故ニ斯ル關係ヲ爲スニ當リテ如何ナル能力ヲ有スルコトヲ必要トスルヤハ特別ノ規定ヲ待テテ始メテ定マルモノトス我國籍法ニ於テハ諸國ノ法律ト同シク一般ノ法律行爲ト同一ノ能力ヲ必要トシ其本國法ニ從ヒ能力ヲ有スルコトヲ必要ト爲セリ

隨テ其本國法ニ依リ未成年者タル者又ハ禁治產者準禁治產者タル者ハ歸化ノ出願ヲ爲スコトヲ得サルナリ且本國法ニ從ヒ能力ヲ有スル場合ニ於テモ若シ我民法ノ規定ニ從ヒ未タ成年ニ達セタル者ナルトキハ歸化ヲ出願スルコトヲ得タルモノトセリ是レ特ニ滿二十年以上ニシテト明言セル所以ナリ

第二 五箇年以上引續キ我國ニ住所ヲ有スルコト

國籍法 國籍及ヒ國籍ノ範圍 國籍ノ取得 歸化ノ國籍取得

第三 品行端正ナルコト
 第四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト
 右ニ掲クル第二、第三、第四ノ條件ハ殆ト説明ヲ俟タサル所ニシテ未タ我國ニ住所ヲ定メサル者ノ如キ又ハ素行不良ナル無賴ノ徒ノ如キ若クハ獨立シテ生活ヲ營ムコト能ハサル者ノ如キハ眞ニ我國ノ臣民ト爲ル意思アルコトヲ推測スルニ足ラサルカ又ハ我國ノ秩序ヲ害シ若クハ我國ヲシテ徒ニ費用ヲ負擔セシムル者ニシテ其歸化ヲ許スコトヲ得サルコト固ヨリ論ヲ俟タス隨テ右ノ條件ヲ必要トスルコト疑ヲ容レサルナリ

第五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト
 此條件ハ若シ我國ニ歸化シ我國ノ國籍ヲ取得スルニ拘ハラヌ尙ホ其本國ニ於テ國籍ヲ喪失セサルモノトスレハ茲ニ國籍ノ抵觸ヲ來スヘキカ故ニ斯ル困難ヲ避クルカ爲メニ此條件ヲ必要トスルナリ隨テ歸化ヲ出願スル外國人ハ其無國籍人タルコト即チ何レノ國籍ヲモ有セサルコトヲ證明シ或ハ其既ニ有スル外國ノ國籍ヲ歸化ニ因リテ喪失スヘキコトヲ證明シ若シ其本國ノ法律カ斯ル

國籍喪失ヲ認メサルトキハ本國官廳ヨリ其國籍ヲ脱スヘキ許可ヲ得タルコトヲ證明セサルヘカラス現今ニ於テ斯ル條件ヲ必要トスルモノハ唯瑞典及ヒ諸國等一二ノ國ニ過キスシテ其他ノ諸國ニ於テハ斯ル條件ヲ必要トセス又今日ノ文明諸國ニ於テハ前ニ述ヘタル如ク移住脱籍ノ自由ヲ認ムルカ故ニ外國ニ歸化スルヲ以テ國籍喪失ノ原因ト認メサルハナシ隨テ斯ル條件ヲ必要トセザルナリ故ニ我國ニ於テモ斯ル條件ヲ必要トスヘキヤ否キハ立法上ヨリ考フレハ大ニ攻究スヘキ問題ニシテ或ハ不當ノ條件ナリト論定スルコトヲ得ヘキモノナリ何トナレハ歐米諸國ノ外國人ニ對シテ斯ル條件ヲ規定スルノ必要ナク支那人若クハ朝鮮人等ノ歸化ノ適用多キ外國人ニ對シテ若シ斯ル條件ヲ必要トセハ此等ノ外國人ノ將來我國ニ歸化セントスル上ニ於テ非常ノ不便ヲ被ルヘキ結果ヲ來スヘキヲ以テナリ

以上述ヘタル所ハ通常ノ外國人ニ對シテ必要ナル歸化ノ條件ナリ尙ホ外國人ノ妻ニ對シテハ特別ノ條件アリ國籍法第八條ニ依レハ外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス下規定セリ茲ニ夫ト共ニト云ヘルハ

夫ト獨立ニ且夫ノ歸化ヨリ先ニ妻ノミカ單獨ニ我國ニ歸化スルコトヲ許サザルノ精神ナリ隨テ夫ト同時ニ又ハ夫ノ歸化ヨリ後ニ至リテ妻カ歸化スルコトヲ妨ケス且夫ト同時ニ妻カ歸化スル場合ハ夫ノ歸化ノ妻ニ及ホス效果トシテ妻カ我國籍ヲ取得スルモノナリ又夫ヨリ後ニ妻カ歸化スル場合ハ國籍法第十四條ニ規定スル所ニシテ歸化ニ關スル一切ノ條件ヲ具備セザル場合ニ於テモ尙ホ我國ニ歸化スルコトヲ得ルモノト爲セリ隨テ第八條ノ適用ハ唯妻カ夫ニ先チテ歸化スルコトヲ許サザルヲ謂フノミ即チ夫婦國籍ヲ異ニスルコトヲ避クルカ爲メナリ

尙ホ特別ノ事情アル外國人ニ付テハ以上ニ述ヘタル五箇ノ條件ヲ必要トセザル者アリ或ハ其中ノ二三ノ條件ヲ必要トセザル者アリ此等ノ特別ノ場合ハ凡ソ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得即チ左ノ如シ

第一 五年以上住所ヲ有セザルモ尙ホ歸化ヲ許スヘキ場合國籍法第九條參照也
 此場合ハ(一)父又ハ母ノ日本人タリシ者(二)妻ノ日本人タリシ者(三)日本ニ於テ生レタル者(四)引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者ノ四ニシテ其中(一)乃至(三)ニ

掲ケタル者ハ現ニ我國ニ住所ヲ有スル限ハ唯三年以上日本ニ居所ヲ有スルトキハ歸化ヲ爲スコトヲ得然レトモ(三)ニ掲ケタル者ニ付テハ其者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生レタル者ナルトキハ此三年以上居所ヲ有スヘキ制限ニモ從フコトヲ要セザルナリ

第二 五年以上ノ住所本國法ノ能力並ニ獨立自營ノ資力ノ三條件ヲ必要トセザル場合(國籍法第一〇條參照)

此場合ニ歸化ヲ請求スル外國人ノ父又ハ母カ現在日本人即チ日本人ノ國籍ヲ有シ且其外國人カ現ニ我國ニ住所ヲ有スル場合ナリトス斯ル場合ニ於テハ其住所ノ年限ノ如何ニ拘ハラズ且其本國法ニ從ヒ能力ヲ有スルト否トヲ問ハス荷モ品行端正ニシテ我國籍取得ノ爲メニ國籍抵觸ノ虞ナキ以上ハ綜合獨立自營ノ資力ヲ有セザルモ仍ホ我國ニ歸化スルコトヲ得ヘシ是レ寧ロ我國ニ國籍ヲ有スル父又ハ母ト國籍ヲ同シウセシムルヲ可トスルカ爲メナリ

第三 何等ノ條件ヲモ必要トセザル場合(國籍法第一一條參照)

我國ニ特別ノ功勞アル外國人ハ以上ノ五條件ヲ備ヘザル場合ニ於テモ特ニ歸

化ヲ許可スルコトアリ但此場合ニハ内務大臣ハ其歸化ヲ許可スルニ當リ勅裁ヲ經サルヘカラス又斯ル場合ハ歐洲諸國ニ於テ所謂大歸化トシテ特別ノ取扱ヲ受クヘキ場合ナルカ故ニ我國ニ於テモ寧ロ斯ル外國人ノ我國民ト爲ルヲ希望スルノ必要ヨリシテ普通ノ歸化ノ條件ヲ必要トセザルナリ

第三項 歸化ノ效力

歸化ノ效力ヲ述フルニ當リ第一ニ注意スヘキハ歸化ノ效力ハ唯其效力發生ノ時ヨリ將來ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノニシテ既往ニ遡リテ其效力ヲ生セザルコト是ナリ然ラハ歸化ノ效力ハ如何ナル時ヨリ發生スヘキヤト云フニ此時期ニ付テハ諸國ノ法律ハ必スシモ一致セズ或ハ歸化人カ特ニ歸化國ニ忠實ノ宣誓ヲ爲シ或ハ其本國ニ對スル服從ノ義務ヲ拋棄スヘントノ宣誓ヲ爲シタル時ヨリ其效力ヲ發生ストスルモノアリ英吉利北米合衆國埃太利瑞典諾威等ハ之ニ屬ス或ハ又歸化ノ許可ヲ戶籍簿ニ登錄シタル時ヨリ效力ヲ發生ストスル國アリ葡萄牙西班牙ノ如キハ之ニ屬ス或ハ又特別ノ大歸化ニ付テハ之ヲ官

報ニ登錄シタル時ヨリ其效力ヲ發生ストスル國アリ佛蘭西伊太利ノ如キ之ニ屬ス或ハ又歸化ノ許可ヲ更ニ歸化人カ承諾シタル時ヨリ效力ヲ發生ストスル國アリ和蘭白耳義ノ如キ之ニ屬ス或ハ歸化ノ許可書ヲ交付シタル時ヨリ效力ヲ發生ストスル國アリ獨逸ノ如キ是ナリ我國ニ於テハ國籍法草案ニハ歸化ハ許可ノ公布後滿二十日ヲ經過シタル時ヨリ其效力ヲ發生スヘキコトヲ規定シタルトモ現行國籍法ハ此點ニ關シ何等ノ規定ヲ設ケス面シテ第十二條ニ依レハ歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス歸化ハ其告示アリタル後ニ非ザレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定セリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ如何ナル人ニモ對抗シ得ヘキ效力換言スレハ完全ナル效力ハ歸化ヲ官報ニ告示シタル時ヨリ發生スヘキモノナリト雖モ本人ニ對スル歸化ノ效力ハ内務大臣カ歸化ノ許可ヲ與ヘタル時ヨリ發生スルモノト解スルカ如シ然ルニ實際ニ於テハ歸化ノ許可ハ其當日ノ官報ニ之ヲ告示スルヲ以テ例トスルカ故ニ本人ニ對シテモ亦官報ニ告示ノ時ヨリ效力ヲ發生スルモノト謂フコトヲ得ヘシ果シテ然ラハ第二項ハ畢竟無用ノ規定ト謂フヘシ

歸化ノ效力ハ外國人ヲシテ我國ノ國籍ヲ取得セシメ我國臣民タルノ權利ヲ享有シ義務ヲ負擔セシムルニ在リ然ルニ近世諸國ノ立法例ニ於テハ歸化ハ唯リ商人の效力即チ歸化ヲ出願シタル者ニ對シテ國籍變更ノ效力ヲ生スルノミナラス尙ホ包括的の效力即チ歸化出願人ノ妻及ヒ子ニ對シテモ亦國籍變更ノ效力ヲ生スルモノトセリ蓋シ夫婦親子國籍ヲ同シウシ一家ノ統一ヲ完ウセシムルノ必要ヨリ出テタルモノナリ故ニ歸化ノ效力ハ之ヲ左ノ三點ニ別テテ說明セントス

(一) 本人ニ及ホス效力
 (二) 其妻ニ及ホス效力
 (三) 其子ニ及ホス效力

第一 歸化ノ本人ニ及ホス效力
 歸化ハ歸化人ニ生來ノ臣民ト同シク臣民タルノ資格ヲ付與スルモノナルカ故ニ隨テ臣民トシテ享有スヘキ權利ヲ付與シ臣民トシテ負擔スヘキ義務ヲ負擔セシムルモノナリ何レノ國ノ國籍法ニ於テモ義務負擔ノ點ニ於テハ生來ノ臣

民トモ異ナル所ナキヲ以テ原則トスレトモ權利享有ノ點ニ付テハ必スシモ生來ノ臣民ト同一ナルヲ得タルモノニシテ殊ニ公權就中參政權ニ至リテハ歸化人ハ或ハ終身間或ハ一定ノ年限間内國臣民ト同一ノ權利ヲ享有スルコトヲ得タルヲ以テ原則トスルナリ我國籍法第十六條ニ於テモ斯ル制限ヲ設ケタリ即チ夫レニ從ヒテ外國籍ヲ取得スル者ハ其ノ權利ハ日本入ノ權利ニ對シテ又

(一) 國務大臣ト爲ルコト
 (二) 樞密院ノ議長副議長又ハ顧問官ト爲ルコト
 (三) 宮内勅任官ト爲ルコト
 (四) 特命全權公使ト爲ルコト
 (五) 陸海軍ノ將官ト爲ルコト
 (六) 大審院長會計検査院長又ハ行政裁判所長官ト爲ルコト
 (七) 帝國議會ノ議員ト爲ルコト

是ナリ蓋シ此等ノ公權ハ最モ重大ナル權利ニシテ最モ忠實ナル愛國心ヲ有スルコトヲ要スルカ故ニ我國ニ歸化シタル者カ果シテ生來ノ臣民ノ如ク我國ニ

忠實ナリヤ否ヤム尙ホ十分ニ信用スルコトヲ得タル者ナルヲ以テ公益上ノ必要ヨリ斯ル制限ヲ設ケタルモノナリ且此制限ハ終身間ニシテ諸外國ノ立法例ノ如ク十年間又ハ五年間ト年限ヲ限ラサルナリ然レトモ歸化人ノ中ニ於テ我國ニ特別ノ功勞アル者ナルトキハ五年ノ後ニ於テ內務大臣ノ勅裁ヲ經テ之ヲ解除スルコトヲ得セシメ其他ノ國籍取得者ニ付テハ十年ノ後ハ均シク之ヲ解除スルコトヲ得ルモノト爲セリ是レ國籍法第十七條ニ規定スル所ナリ尙ホ此ノ如キ公權ノ制限ハ唯リ歸化人ノミニ止マラスシテ歸化ノ效力トシテ我國籍ヲ取得シタル者即チ歸化人ノ子ニ對シテモ均シク斯ル制限ヲ設ケタリ又歸化ノ手續ニ依ラスシテ我國籍ヲ取得シタル者即チ日本人ノ養子ト爲リ又ハ入夫ト爲リテ我國籍ヲ取得シタル者モ均シク此等ノ制限ニ從ハサルヘカラス此等ハ其原因ヲ異ニスレトモ外國人タリシ者カ我國籍ヲ取得シタルノ點ニ於テハ歸化ト異ナル所ナキモノナルカ故ニ同一ノ制限ニ從ハシメ兩者間ノ權衡ヲ保タシメタルナリ

ラ生スルノミニ非スシテ亦其家族ニ對シテモ國籍變更ノ效力ヲ發生スルモノナリ學者ハ或ハ之ヲ稱シテ歸化ノ概括の效力ト曰ヘリ此ノ如キ效力ハ夫婦親子ヲシテ同一ノ國籍ヲ有セシメ一家ノ統一ヲ保タシムルノ必要ヨリ出テタルモノナリ故ニ歸化ノ效力ヲ説明スルニ當リテハ尙ホ此概括の效力即チ歸化ノ妻ニ及ホス效力及ヒ子ニ及ホス效力ヲモ併セテ説明セザルヘカラス

第二 歸化ノ妻ニ及ホス效力

妻ハ夫ノ歸化ニ因リテ歸化國ノ國籍ヲ取得スルコトハ近世諸國ノ國籍法ニ於テ概テ認メラルル所ナレトモ其方法ニ至リテハ之ヲ異ニス即チ英吉利亞米利加獨逸伊太利奧太利等ニ於テハ妻ハ夫ノ歸化ニ因リテ當然其國籍ヲ變更スルモノトセリ唯此等ノ諸國ノ中ニハ或ハ妻カ夫ト共ニ歸化國ニ住居スルコトヲ必要トスルモノアリ我國籍法第十三條ニ於テモ亦此當然國籍取得主義ヲ認メ歸化人ノ妻ハ夫ト共ニ我國籍ヲ取得スルモノト爲セリ然レトモ露西亞葡萄牙等ノ諸國ニ於テハ夫ノ歸化ハ妻ノ國籍ニ當然變更ヲ及ホサズトスルヲ以テ我國籍法第十三條第二項ニ於テ若シ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキ即チ妻カ

當然我國籍ヲ取得スルコトヲ認メサル場合ニ於テハ第一項ノ原則ハ之ヲ適用セサルモノトシスル妻ハ夫ノ歸化ニ拘ハラズ猶ホ其本國ノ國籍ヲ保有スルモノトセリ仍ホ佛蘭西法系ノ諸國ニ於テハ妻ハ夫ノ歸化ト同時ニ自ラ歸化スルコトヲ請求スルニ非サレハ夫ノ國籍ヲ取得スルコトヲ得サルモノトセリ隨テ斯ル國ニ屬スル夫カ我國ニ歸化スルニ當リテモ亦第十三條第二項ノ規定ニ依リ其妻ハ當然我國籍ヲ取得スルモノニ非ス然レトモ此ノ如キ制限ハ無用ノ規定ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ此場合ニ妻カ當然我國籍ヲ取得セザルモ若シ其後ニ至リ夫ト同シク我國籍ヲ取得セント欲スルトキハ歸化ノ手續ニ因リテ我國ニ歸化ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス斯ル歸化ニ付テハ一般ノ歸化ニ要スル一切ノ條件ヲ必要トセザルコトハ國籍法第十四條ニ規定スル所ナレハナリ隨テ妻ハ其本國法ノ規定如何ニ拘ハラズ夫ノ歸化ニ因リテ當然我國籍ヲ取得スルト同一ノ結果ヲ來スカ故ニ第十三條第二項ノ制限ハ其趣旨ヲ貫徹セザルモノニシテ第十四條ノ規定ト撞著スルモノト謂フヘシテ故ニ夫カ歸化第三條ノ歸化ノ子ニ及ホス效力ニ依リテ我國籍取得スルモノト謂フヘシテ故ニ

父又ハ母ノ歸化ハ其未成年ノ子ノ國籍ヲ變更スヘキ效力ヲ發生スルモノニシテ斯ル效力ハ諸國ニ於テ概テ認メラル所ナリ唯英吉利亞米利加奧地利伊太利佛蘭西等ノ諸國ニ於テハ未成年ノ子カ成年ニ達シタル後其自由意思ニ因リテ父又ハ母ノ舊國籍ヲ選擇スルコトヲ得ルモノト爲シ子ニ國籍選擇權ヲ付與セリ故ニ斯ル子ハ國籍選擇ト云フ解除條件ニ從ヒ父又ハ母ノ歸化ノ當初ヨリ新國籍ヲ取得スルモノナリ隨テ其者カ成年ニ達シタル時トハ新國籍法ノ成年、未成年ノ區別ニ從ヒ成年ニ達シタル時ヲ謂フナリ我國籍法第十五條ニ於テハ子カ其本國法ニ從ヒ未成年ナルトキハ父又ハ母ノ歸化ニ因リテ當然且無條件ニ我國籍ヲ取得スルモノト爲シ又成年ノ子ニ付テハ其任意ニ我國ニ歸化スルコトヲ必要ト爲シ父又ハ母ノ歸化ノ效力トシテハ何等ノ影響ヲ及ホサザルモノト爲セリ而シテ第十五條第二項ニ於テモ亦未成年ノ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ此限ニ在ラズト規定シスル子ハ我國籍ヲ取得セザルモノトセリ斯ル規定モ亦甚タ曖昧ナル規定ニシテ若シ其本國法ニ條件附國籍取得ヲ認ムルトキハ之ヲ適用スルコトヲ得ザルナリ

思想ヲ認メ無事ノ民ヲシテ強ヒテ其意ニ反シテ國籍ヲ變更セシムヘキ必要ナキコトヲ自覺シ近世ノ國際條約ニ於テハ一定ノ條件ヲ以テ舊國籍ヲ引續キ保有シ新國籍ヲ取得セザルコトヲ得ルノ自由ヲ認ムルニ至レリ此自由ヲ稱シテ選擇權(Option)ト稱シ斯ル權利ヲ規定セル條項ヲ稱シテ割讓條約ノ選擇條款ト稱ス其條件ハ即チ通常一定ノ期間内ニ割讓地ヲ退去スルコトヲ要スルヲ以テ例ト爲シ退去セザル限ハ絶對的ニ新國籍ヲ取得スルモノト爲ス而シテ若シ其期間内ニ退去スルトキハ舊國籍ヲ曾テ喪失スルコトナクシテ之ヲ引續キ保スルモノト爲セリ隨テ新國籍ヲ取得セザルモノト看做スナリ茲ニ於テ斯ル選擇權トハ何ソヤト云フコトヲ論定スルノ必要アリ學者ニ依リテハ種種其説明ヲ異ニスレトモ選擇權トハ退去即チ移住ノ特權ニシテ領地割讓ノ結果トシテ當然取得シタル新國籍ヲ解除スルノ條件ナリト説明スルヲ以テ最モ至當ナリト信ス即チ斯ル條件ハ讓受國ヨリ云フトキハ當然取得スヘキ國籍ノ解除ヲ來スモノニシテ又割讓國ヨリ云フトキハ領地ノ割讓ニ因リ國籍ヲ喪失シタル者ヲシテ舊國籍ヲ回復セシムルニ當リ或ハ歸化ノ手續ニ依リ或ハ國籍回復ノ手

明書ハ強制執行ノ爲メニ全然必要ナシ何トナレハ強制執行ハ唯執行文ヲ付シタル判決正本ニ基キテ之ヲ實施シ特ニ判決確定ノ證明書ヲ必要トセス(第五一六條)又假執行ノ宣言ニ依ラスシテ即チ判決ノ確定ニ依リテ付與シタル執行文ハ判決ノ確定ニ關スル一ノ證明書ニ外ナラザルヲ以テナリ故ニ判決確定ノ證明書ニ關スル規定ハ強制執行ニ關スル規定ニ屬スルモノニ非ス然レトモ現行民事訴訟法ニ在リテハ獨逸民事訴訟法ニ於ケルト同シク第六編強制執行中ニ於テ判決確定ノ證明書ニ關スル規定ヲ設ケタリ是レ畢竟該規定ハ判決ノ確定ニ關スル規定(第四九八條ノ附則)若クハ補則ニ外ナラザルヲ以テ後者ノ規定ノ次位ニ之ヲ設クルコトヲ立法上正當ナリト認メタルニ由ル民事訴訟法改正案ニ在リテハ之ニ反シテ判決確定ノ證明ニ關スル規定ハ判決ノ確定ニ關スル規定ト共ニ之ヲ第二編第二節判決規定中ニ之ヲ設ケ第八編強制執行中ニ設ケサリシ是レ北獨逸聯邦民事訴訟法案ト其立法例ヲ同シウスルモノニシテ立法上洵ニ其當ヲ得タルモノト謂ハサルヲ得ス(判決確定ノ證明ニ關スル條文ノ位置)判決確定

ノ證明書ハ主トシテ強制執行停止ノ要求(第五〇條)既判效ノ抗辯(第二四四條)民事訴訟法第二百七條並ニ第二百二十八條ニ規定セル場合ニ於ケル辯論ノ續行、外國ニ於ケル強制執行(第五一四條)第五一五條)配當手續ノ實施(第六三及條)供託物ノ返還請求及ヒ身分關係ノ確定(戶籍法第七九條)第九二條等等ニ關シ其必要アリト雖モ執行文ノ付與ニ關シ其必要ナシ蓋シ裁判所書記ハ執行文ヲ付與スルニ當リ判決ニ假執行ノ宣言ナキトキハ訴訟記録ニ基キ判決ノ形式的確定ノ有無ヲ調査シ上訴ノ提起ナカリシコト明確ナルトキニ非ナレハ執行文ヲ付與セス又斯ル調査ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ民事訴訟法第四百九十九條末項ニ規定セル證明書ノ提出ヲ求ムルコトヲ得ルヲ以テナリ(判決確定ノ證明書ノ實用アル場合判決確定ノ證明書ハ公正證書ナルヲ以テ偽造又ハ變造ノ反證アルマテハ判決ノ確定ヲ證スルノ效力ヲ有スルコト固ヨリ當然ナリ)判決確定ノ證明書ノ效力左ニ判決確定ノ證明書付與ノ手續ヲ略述スヘシ

當時訴訟記録ノ現存スル裁判所ノ書記カ該記録ニ基キテ之ヲ付與ス(第四九條)民事訴訟法改正案第二八三條(第一)判決確定ノ證明書ハ當事者原告若クハ被告若クハ從參加人又ハ第三者ノ申請ニ因リテ之ヲ付與ス是レ蓋シ判決確定ノ證明書ハ判決ノ確定ニ付キ利益ヲ有スル當事者又ハ第三者ノ爲メニ付與スルモノニシテ實ニ原告若クハ勝訴者ノ爲メニ付與スルモノニ非ナレハナリ申請權者(第四九九條)第一項原告若クハ被告但決ニ失ズ(第二)判決確定ノ證明書ハ其之ヲ求ムル申請ノ當時訴訟記録ノ現存スル裁判所ノ書記之ヲ付與ス是レ蓋シ判決確定ノ證明書ノ付與ハ判決原本若クハ之ト同視スヘキ認證原本送達證書言渡調査判決カ言渡ニ因リテ確定スル場合等ノ如キ判決ノ確定ノ有無ヲ調査スルニ必要ナル材料存スル訴訟記録ニ基キテ容易ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ公證事項ニ屬スルヲ以テ之ヲ訴訟記録ノ現存スル裁判所ノ書記ニ委任シタルニ外ナラス又判決確定ノ證明書ハ第一審裁判所ノ書記カ記録ニ基キテ之ヲ付與スルヲ通則トシ訴訟、**か上級審ニ繁屬中ナルトキニ限リ上級裁判所ノ書記カ記録ニ基キ判決ノ**

確定ト爲リタル部分ノミニ付キ之ヲ付與スルヲ特別トス元來判決確定ノ證明書ハ唯訴訟記録ノミニ基キテ之ヲ付與スヘキモノナルコト前述ノ如ク隨テ又訴訟記録ノ現存スル裁判所ノ書記カ之ヲ付與スヘキモノナルコト前述ノ如シ而シテ訴訟記録ハ通常第一審裁判所ニ保存セラレタルコトハ民事訴訟法第四百三十一條第二項及ヒ第四百五十四條第八號ニ依リ明白ニシテ訴訟カ上級審ニ繫屬中ノトキニ限リ上級裁判所ニ存在スルコト民事訴訟法第四百三十一條第一項、第四百五十四條第八號ニ依リ明白レズル通則及ヒ特別ノ存スル所以ナリ(第四九九條第一項、第二項民事訴訟法改正案第二八三條第一項)民事訴訟法第四百九十九條第一項ニ所謂訴訟カ尙ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキトハ訴訟記録カ上級審ニ現存スルトキト解スルコトヲ要ス元來判決確定ノ證明書ノ付與ハ裁判所書記ノ職權ニ屬シ裁判所ノ職權ニ屬セザルコト前述ノ如キヲ以テ上級審ニ於ケル訴訟繫屬ノ意義ハ裁判所書記ノ職權ヨリ觀察シテ之ヲ定メ裁判所ノ職權ヨリ觀察シテ之ヲ定ムルモノニ非ス斯ル觀察ニ基クテ上級審ニ於ケル訴訟繫

屬ハ訴訟記録現存セル裁判所書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與スルノ法則ヨリ推理シテ訴訟記録カ上級裁判所書記課ニ法律上現存スルノ意義ナリト謂ハザルヲ得ス是レ予輩カ前示ノ如ク訴訟記録カ上級審ニ現存スルトキト解スル所以ニシテ又民事訴訟法改正案第二百八十三條第一項ニ於テ訴訟記録カ上級審ニ在ルトキト修正シタル所以ナリ故ニ判決確定ノ證明書付與ニ關スル上級裁判所書記ノ職權ハ下級裁判所書記カ上級裁判所書記ノ求ニ因リ訴訟記録ヲ送付シタルトキニ始マリ訴訟記録ヲ上級裁判所ニ存スルノ必要ナキニ至リタルカ爲メニ上級裁判所ノ書記カ訴訟記録ヲ下級裁判所ノ書記ニ返還シタルトキニ終ヘリ上級裁判所ノ職權ヨリ觀察シタル訴訟ノ上級審ニ於ケル繫屬ノ如クニ上訴狀ノ提起ニ因リテ開始シ言渡シタル判決ノ確定及ヒ上訴ノ取下等ニ因リテ終結スルモノニ非ス隨テ認證原本作成ノ爲メニ裁判所書記ノ職務存續シ訴訟記録ヲ上級審ニ留存スルノ必要アルカ如キ場合ニ在リテハ上級審ニ繫屬セル訴訟カ確定判決ニ因リテ終結シタルトキト雖モ上級裁判所ノ書記カ判決確定ノ證明書ヲ

付與スルノ職權ヲ有スルモノトス獨逸ニ於テハ「ガウプ」氏ハ訴訟カ上級審ニ於テ和解、上訴權ノ拋棄、又ハ上訴ノ取下ニ因リテ終結シタルトキハ判決ヲ以テ上訴權ノ喪失、又ハ上訴費用ノ負擔ヲ言渡サシムルコトヲ得ヘキ被上訴人ノ權利ニ關係ナク上級裁判所書記ノ判決確定ノ證明書付與ニ關スル職權消滅スル旨ヲ論述スト雖モ予輩ハ我民事訴訟法ノ解釋トシテハ法文上何等ノ區別ナキヲ以テ斯ル場合ト雖モ訴訟記録カ未タ前審ニ返還セラレサル間ハ尙ホ上級裁判所ノ書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與スヘキモノト思フ

再審ノ訴訟ノ繫屬ハ判決確定ノ證明書付與ニ關シテハ之ヲ上訴審ニ於ケル訴訟ノ繫屬ト同視スルヲ正當トス換言スレバ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ハ再審ノ訴訟手續ニ準用セラルルモノナリ故ニ再審ノ訴訟カ上級審ニ繫屬シタルトキハ其終結後ニ非サレハ從前ノ受訴裁判所タル第一審裁判所ノ書記ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ヌ又判決ノ確定ト爲リタル部分トハ確定シタル下級審ノ一分判決確定シタル上級審ノ一

分判決其他上訴ヲ以テ不服ヲ申立テラレタル前審判決ノ一部ニシテ上訴ノ取下又ハ上訴權ノ拋棄ニ因リテ確定シ或ハ和解ニ因リテ確定シタルモノヲ指示ス但前審判決ノ一部ニ付キ上訴ノ提起アリタルトキハ前述ノ如ク判決全部ノ確定ヲ妨グルノ效力ヲ有スルヲ以テ前審判決ノ一部ニシテ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テラレタルモノハ茲ニ所謂判決ノ確定ト爲リタル部分ト爲ラス付與ノ機關(第三)裁判所書記ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルニ際シ其申請者カ如何ニシテ判決確定ノ證明書ヲ必要ト爲スカノ理由ヲ調査スヘキモノニ非ス何トナレハ法律ハ之カ理由ノ存否ヲ證明書付與ノ要件ト爲ササルヲ以テナリ然レトモ判決カ形式的ニ確定シタルヤ否ヤヲ獨立的ニ即チ裁判官ノ指揮ニ依ラスシテ調査スルコトヲ要ス何トナレハ判決確定ノ證明書ノ付與ハ法律カ裁判所書記ニ委任シタル獨立の職務ナレハナリ斯ル調査ノ方法トシテハ裁判所書記ハ訴訟記録ニ基キテ第一ニ判決カ形式的ニ確定スルコトヲ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ調査ス而シテ其結果判決カ形式的ニ確定スルコトヲ得サルモノナルトキ(中間判決ノ如キ)ハ

判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ス第二ニ法律上上訴又ハ故障ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ判決ナルヤ否ヤヲ調査ス而シテ其結果法律上上訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ザル判決上告審ニ於テ言渡シタル對席判決ノ如キ若クハ法律上故障ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ザル判決上告審ニ於テ言渡シタル故障棄却ノ新闕席判決ノ如キナルトキハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得又上訴若クハ故障ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル判決ナルトキハ上訴期間若クハ故障期間ノ徒過確實ナルトキニ限り判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得而シテ斯ル上訴期間徒過ノ有無ヲ調査スルコトヲ得セシムルカ爲メニハ當事者直接送達主義ヲ是認シタル獨逸民事訴訟法ニ在リテハ(獨逸民事訴訟法第一六六條判決確定ノ證明書付與申請者ハ裁判所書記ニ判決正本ノ送達證書ヲ提出シテ上訴期間カ既ニ判決正本ノ送達ニ依リテ進行ヲ始メタル旨ヲ證明シ獨逸民事訴訟法第五一六條第四〇〇條且上訴カ不變期間内ニ提起ナカリシ旨ヲ證據セザルヘカラス之ニ反シテ間接送達主義ヲ是認シタル我民事訴訟法

ニ在リテハ(民事訴訟法第一三六條民事訴訟法改正案第一五三條判決正本送達證書ハ其送達ヲ申請シタル當事者ノ掌中ニ存セスシテ却テ裁判所書記ノ掌中ニ存スルヲ以テ(民事訴訟法改正案第一七三條判決確定ノ證明書付與申請者ハ單ニ判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得ザルトキニ限り不變期間内ニ上訴ノ提起ナカリシ旨ヲ證明スルコトヲ得ザルトキニ限り不變期間ニ上訴ノ提起ナカリシ旨ヲ證明スレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得ザルトキニ限り不變期間内ニ上訴ノ提起ナカリシ旨ヲ證明スルコトヲ得ザルトキニ限り不變期間ニ上訴ノ提起ナカリシ旨ヲ證明スルコトヲ得セシムルカ爲メニハ當事者直接送達主義ヲ是認シタル獨逸民事訴訟法ニ在リテハ故障期間ノ徒過ノ有無ヲ調査スルコトヲ得セシムルカ爲メニ判決確定ノ證明書付與申請者カ判決ノ送達ニ依リテ故障期間ノ進行アリタル旨ヲ證明スルコトヲ要スルヤ否

換タス之ニ反シテ當事者間接送達主義ヲ是認シタル我民事訴訟法ニ在リ
 テハ斯ル證明ヲ要セザルコト上訴ニ關シテ說明シタル所ニ同シ(隨テ判決
 確定ノ證明書付與申請者ハ判決ニ對シ故障ノ申立ナキ場合ニ非ザルハ證
 明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ於テ不變期間内ニ故障ノ申立ナカ
 シ旨ヲ證明スルハ必要ナシト雖モ之ニ反シテ上訴ノ提起ハ上級裁判所ニ
 上訴狀ヲ差出シテ之ヲ爲スモノナルヲ以テ(民事訴訟法第四〇一條第四三
 八條)判決確定ノ證明書付與ヲ申請セラレタル下級裁判所ノ書記第一審並
 ニ第二審ノ書記ハ其所屬裁判所ノ爲シタル判決ニ對シテ上訴ノ提起アリ
 タルヤ否ヤヲ訴訟記録ニ基キテ容易ニ調査スルコトヲ得ス上級裁判所カ
 下級裁判所ノ所在地ヨリ遠隔シタル地ニ在ルトキハ書類ノ往復ニ日數ヲ
 要ス隨テ上級裁判所ノ書記カ上訴ノ提起アリタルカ爲メニ民事訴訟法第
 四百三十一條ノ規定ニ則リ訴訟記録ノ送付ヲ求メタルモノ其請求書カ未
 タ下級裁判所ニ到達セザル場合アリ故ニ下級裁判所ノ書記ハ判決ノ送達
 ヨリ一箇月間内ニ上級裁判所ノ書記ヨリ訴訟記録送付ノ請求ナカリシ

事ヲ以テ上訴ノ提起ナキモノト速斷スルコトヲ得ス故ニ判決確定ノ證明
 書付與ノ申請者ニ於テ上訴カ其期間内ニ提起ナカリシコトヲ證明スルハ
 必要アレハナリ而シテ法律ハ斯ル證明ノ爲メニ民事訴訟法第四百九十九
 條第三項(民事訴訟法改正案第二八三條第三項)規定セル上級裁判所書記
 ノ證明書ヲ以テ足レリト爲セリ故ニ判決確定ノ證明書付與ヲ申請セラレ
 タル下級裁判所ノ書記ハ前示上級裁判所書記ノ證明書ニ基キ判決確定ノ
 證明書ヲ付與スルコトヲ得然レドモ前示上級裁判所書記ノ證明書ハ判決
 確定ノ證明書付與ニ付キ下級裁判所ノ書記ニ對シ其所屬裁判所ノ判決ニ
 對スル上訴期間ノ徒過アリタルコトヲ證スル一ノ證據方法ナルニ止マリ
 唯一ノ證據方法ニ非ス故ニ判決確定ノ證明書付與ヲ申請セラレタル下級
 裁判所ノ書記ハ絕對的ニ前示證明書ノ提出ヲ求ムルコトヲ得ス上級審
 ヲ訴訟記録送付ノ請求ナキ事實(民事訴訟法第四三一條第四五四條)及ヒ上
 訴權拋棄ノ證明書等ニ基キテ上訴期間ノ徒過アリタルコトヲ確知セル以
 上ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ要ス是レ民事訴訟法第四百九十

九條第三項ニ於テ「足ル」ト規定シ同條同項ニ規定セル證明書ハ一ノ證據方法ニシテ唯一ノ證據方法ニ非ス故ニ判決確定ノ證明書付與申請者ニ於テ他ノ證據方法ヲ提出スルコトヲ得ル旨ヲ明示シタル所以ナリ隨テ民事訴訟法第四百九十九條第三項ニ規定セル證明書ヲ判決確定ノ證明書ニ代用スト主張スル學說ハ其當ヲ得タルモノト謂フヘシ(民事訴訟法改正案第二百八十三條第三項ハ斯ル反對說ヲ是認スルニ似タリ)民事訴訟法第四百九十九條第三項ニ規定セル證明書ヲ付與スルノ手續ハ先ツ判決確定ノ證明書付與申請者ハ上級裁判所ノ書記ニ對シ不變期間内ニ上訴ノ提出ナキコトヲ認メタル證明書付與ヲ求ムルノ申立ヲ爲シ且前審判決ニ對シテ既に進行ヲ始メタル上訴期間ノ起算點ヲ證明シ(裁判所カ職權ヲ以テ判決ヲ送達スル場合ニ在リテハ上級裁判所ノ書記ハ進行ヲ始メタル上訴期間ノ起算點ヲ調査スルカ爲メニ下級裁判所ノ書記ニ對シ訴訟記録ノ送付ヲ求め判決確定ノ證明書付與申請者ニ於テ斯ル證明ヲ爲スノ責ナシ例ヘハ人事訴訟手續法第十五條ニ規定セル判決ニ付キ其確定ノ證明書付與ヲ申請ス

ル場合ニ於ケルカ如シ)ハ前審ノ證明書ハ證據ノ證明メタルモノトモ見テ次ニ上級裁判所ノ書記ハ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ付與スルニ在リ隨テ上級裁判所書記ハ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキ以上ハ縱合不變期間經過後原狀回復ノ申立ト共ニ上訴ノ提起アリタルトキト雖モ斯ル證明書ヲ交付スルコトヲ要ス之ニ反シテ前審判決ノ送達不適法ノ爲メニ不變期間進行ナキモノト認メタルトキハ斯ル證明書ヲ付與スルコトヲ得ス第三ニ判決カ故障又ハ上訴棄却ノ判決ニ依リテ確定シタルヤ否ヤヲ調査シ其結果確定シタリト認メタルトキハ判決確定ノ證明書ヲ付與ス但上訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタル判決確定シタルトキハ之ニ依リテ不服ヲ申立テラレタル判決ニ於テ判斷セラレタル法律關係確定スルモノナルヲ以テ裁判所ノ書記ハ上訴裁判所ノ判決確定ノ證明書ヲ付與シ又上訴ヲ不適法トシテ棄却シタル判決確定シタルトキハ其判決ノ理由カ前審判決ノ確定ノ爲メニ上訴ヲ不適法ト爲スニ在ルヤ否ヤヲ區別シ前者ノ場合ニ在リテハ上訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタルトキニ於ケルト

同シク裁判所ノ書記ハ直チニ判決確定ノ證明書ヲ付與シ後者ノ場合殊ニ上訴ノ提起カ其方式ニ適セサルカ爲メニ上訴ヲ棄却シタル場合ニ在リテハ更ニ上訴ヲ提起スルコト能ハサルトキ(上訴期間ノ經過ノ爲メニ限り判決確定ノ證明書ヲ付與ス故障ヲ不適法トシテ棄却シタル場合亦然ラン判決ニ對シ故障ノ申立又ハ上訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ不適法ナルトキト雖モ裁判所書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與スルノ妨ト爲ルヤ否ヤハ學者ノ爭フ所ナリ「フハルクマン」(フキフヘルト氏等)ハ故障又ハ上訴ノ不適ナルコト確實ナルトキハ裁判所書記ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ト立論スレトモ故障又ハ上訴ノ適否ニ關スル調査ハ受訴裁判所又ハ其裁判長ノ職權ニ屬シ裁判所書記ノ職權ニ屬セサルヲ以テ裁判所書記ニ故障又ハ上訴ノ適否ニ關スル裁判アルマテ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得スト立論スルヲ正當ト思フ(第二五七條、第二五九條、第四〇二條、第四一九條、第四三九條)付與ノ手續(第四裁判所書記カ判決確定ノ證明書ハ付與ヲ拒絶シタルトキハ付與ノ申請者ハスル處分ノ變更ヲ求ムルカ爲

メニ裁判所書記所屬ノ受訴裁判所ニ對シ其裁判ヲ求ムルコトヲ得(第四六五條第一項)民事訴訟法改正案第四九八條第一項若シ該裁判所カ處分變更ノ理由ナキモノトシテ之カ申請ヲ却下シタルトキハ其却下ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得(第四六五條第二項、第四五五條)民事訴訟法改正案第四九八條第三項、第四八七條而シテ此場合ニ於ケル抗告ハ通常ノ抗告ニシテ即時抗告ニ非ス何トナレハ判決確定ノ證明書ノ付與ハ強制執行ノ手續ニ屬セサルヲ以テ判決確定ノ證明書付與ニ關スル受訴裁判所ノ裁判ヲ強制執行ノ手續ニ於ケル裁判ト同視シ民事訴訟法第五百五十八條及ヒ民事訴訟法第四百六十六條ノ規定ニ依リ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノト謂フコト能ハサレハナリ裁判所書記カ判決確定ノ證明書ヲ付與シタルトキハ相手方ハスル處分ノ變更ヲ求ムルカ爲メニ裁判所書記所屬ノ裁判所ニ對シ其裁判ヲ求ムルコトヲ得民事訴訟法第四六五條第一項民事訴訟法改正案第四九八條第一項若シ該裁判所カ處分變更ノ理由ナキモノトシテ斯ル裁判ヲ求ムル申立ヲ却下シタルトキ換言スレハ判決確定

定ノ證明書ノ付與ヲ認可シタルトキハ其却下ノ裁判ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ス受訴裁判所カ付與申請者ノ申立ニ因リ判決確定ノ證明書ノ付與ヲ拒絕シタル裁判所書記ノ處分ヲ變更シテ斯ル證明書付與ヲ命シタル裁判ヲ爲シタルトキ亦然リ何トナレハ此場合ニ於テハ民事訴訟法第四百五十五條ニ規定セル要件殊ニ訴訟手續ニ關スル申請ヲ却下シタル裁判ナキヲ以テナリ之ニ反シテ處分變更ノ理由アルモノト認メ判決確定ノ證明書付與ヲ取消シタルトキハ其裁判ニ對シ付與申請者ハ抗告ヲ爲スコトヲ得何トナレハ此場合ニ於ケル裁判ハ判決確定ノ證明書付與拒絕ノ裁判ト同視スヘキモノナルヲ以テナリ「ゾキフヘル」氏カ獨逸民事訴訟法ノ解釋トシテ判決確定ノ證明書付與ニ對シ相手方ハ裁判所書記所屬ノ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ス又判決確定ノ證明書付與申請者ノ申立ニ因リテ爲シタル受訴裁判所ノ裁判ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト云ヘル見解ハ我民事訴訟法ノ解釋トシテ探ルコトヲ得ス裁判所書記カ民事訴訟法第四百九十九條第三項ニ規定セル證明書ヲ付與シタルトキ又ハ之ヲ拒

絶シタルトキハ當事者ハ判決確定ノ證明書ノ付與又ハ拒絕ノ決定ヲ不服トシテ同一ノ法則ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得蓋シ民事訴訟法第四百九十九條第二項ニ規定セル證明書ノ付與及ヒ其拒絕ニ關スル裁判所書記ノ處分ハ判決確定ノ證明書ノ付與及ヒ其拒絕ニ關スル裁判所書記ノ處分ト其性質ヲ同シウスルヲ以テナリ(不服ノ申立)ニ關シ民事訴訟法ニ據リ判決確定ノ證明書ニ關スル規定ハ訴訟費用確定決定ノ如キ形式的確定力ヲ發生スルニ適當ナル決定ニ準用セララルコト固ヨリ當然ニシテ又獨逸民法學者ノ一致スル所ナリ「上野」氏ハ「獨逸」ノ申立ニ因リテ其債務名義タルカ通常ノ上訴非常ノ上告ニ非スヲ以テ不服ヲ申立テララルコトナキニ要スル場合ニ非ナレハ之ヲ許サス是レ畢竟強制執行ハ權利ノ最後ニ實行ナルヲ以テ之ニ依リ辨濟ヲ受クヘキ請求權ノ存在確實ナルモノトヲ要スルニ由ル然レトモ近世ノ訴訟法ニ於テハ判決ノ確定前ニ其判決ニ基テ強制執行ヲ許シタリ例ヘハ佛國民事訴訟法ニ於テハ判決ハ之ニ對シテ不服ヲ申立ツルコ

トシテ得ルトキ、雖モ即時シテ執行力ヲ有シ而シテ佛國民事訴訟法ニ在リテハ判決ノ執行力ハ上訴ヲ提起又ハ故障ノ申立ニ因リテ停止セラルルガ故ニ法律上一定ノ條件存スル場合ニ於テハ判決ニ假執行ノ宣言ヲ付シ上訴ノ提起又ハ故障ノ申立アリタルトキト雖モ強制執行ヲ實施スルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ設ケタリ佛國民事訴訟法第二三四條乃至第三三七條第四五八條乃至第四六〇條獨逸民事訴訟法ニ於テハ佛國民事訴訟法ニ於テ是認シタルカ如キ判決カ即時ニ執行力ヲ有シ上訴又ハ故障ノ申立ニ因リテ其執行力ヲ停止スル旨ノ法則ハ上訴期間ヲ設ケタル法意ニ反スルモノトシテ之ヲ排斥シ原則トシテ判決確定スルニ非サレハ之ニ基キ強制執行ヲ爲スコト能ハサルモノトシテ例外トシテ判決ニ假執行ノ宣言アルトキニ限り判決確定前ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトシタリ故ニ假執行ノ宣言ニ關シテハ獨逸民事訴訟法ハ獨逸普通法及ヒ佛國民事訴訟法ノ中間ニ位スルモノト謂フコトヲ得ヘシ獨逸民事訴訟法ヲ模範トシタル我民事訴訟法亦然シ佛國民事訴訟法第四百一十條執行ノ宣言ハ下級審又ハ上級審ニ於テ之ヲ爲シ民事訴訟法第五百一一條條

一號及ヒ第三號ニ規定セル場合ヲ除ク外關席判決及ヒ對席判決ニ對シテ之ヲ付ス左ニ假執行宣言ノ性質場合防禦手續及ヒ消滅ヲ略述スヘシ(假執行ノ宣言ハ其性質上後述ノ如ク強制執行ノ手續ニ關スル裁判ニ非スシテ訴訟物及ヒ之ニ關スル判決ノ成分ナルヲ以テ假執行ノ宣言ニ關スル規定ハ之ヲ佛國民事訴訟法ニ於ケルカ如ク判決ニ關スル規定中ニ之ヲ置キ強制執行ニ關スル規定中ニ之ヲ置カサルヲ理論上正當ナリトス是レ民事訴訟法改正案ニ於テ假執行ノ宣言ニ關スル規定ヲ判決ニ關スル規定中ニ置キタル所以ナリトシテ) 第一 假執行宣言ノ性質(一) 假執行ノ宣言ハ未確定ノ判決ヲ執行ヲ許ス裁判上ノ宣言ナリ(二) 假執行ハ裁判上ノ宣言ナリ何トナレハ道ハ裁判所カ言渡スヘキモノナレハナリ而シテ該裁判所ニ通則上執行シ得ヘキ判決ヲ爲シタル裁判所ニシテ例外上上訴裁判所ナリ(第五〇九條第五一一條) 假執行ノ宣言ハ未確定ノ判決ヲ確定判決ト同シク執行スルコトヲ許可スル旨ノ宣言スル

ニ止ル故ニ假執行宣言アル判決ニ基キ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テモ執行文ノ付與アルコトヲ必要トス(3)假執行ハ未確定ノ判決ニ對シテノミ宣言セラル何トナレハ確定シタル判決ニ對シテハ法律上當然執行力アルカ故ニ假執行宣言ヲ爲スノ必要ナク又決定及ヒ命令ハ抗告即時抗告ヲモ包含スヲ以テ不服申立ヲ爲スコトヲ得ルニ拘ハラズ當然執行シ得ヘキカ故ニ假執行宣言ヲ爲スノ必要ナシ(第四六〇條(4)假執行ハ判決ノ執行ヲ許ス宣言ナリ故ニ強制執行ニ適當ナル内容ヲ有スル判決ニ對シテ之ヲ付スルハ勿論斯ル内容ヲ有セザル判決殊ニ上訴又ハ故障棄却ノ判決ニ對シテモ之ヲ付ス何トナレハ判決ノ執行トハ強制執行其他判決ノ效力ノ基礎ト爲ルヘキ可能力ニ他ナラザルヲ以テナリ然レトモ法律カ未確定ナルニモ拘ハラズ明示的又ハ默示的ニ言渡ト共ニ即時執行ヲ爲シ得ヘキモノト表示シタル判決ニ對シテハ假執行宣言ヲ付スルノ要ナシ故障又ハ上訴ニ因リテ本案ノ裁判又ハ假執行宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更シタル判決第五一〇條假執行宣言付闕席判決ト同一ノ效力アル執行命令第三九四條ノ如キハ法律カ明示的ニ即時執行力

報 載

○親族會ノ家督相續人選定權及ヒ過半數議決ノ意義ハ親族會カ家督相續人ヲ選定ニ付キ有スル權限如何又民法第九百四十七條ニ所謂過半數ノ意義ニ付キ此頃大審院ハ判決ヲ下シテ曰ク民法第九百五十一條ノ規定ハ必スシモ親族會ノ決議カ法令ニ違背シタル場合ニ限リテ不服ノ訴ヲ許シタル法意ニ非サルコトハ本論旨ノ如クナリト雖モ同法第九百八十五條ノ規定ニ從ヒ親族會カ家督相續人ヲ選定スル場合ニ於テハ親族會カ同條ニ掲記シタル者ノ中ヨリ其適當ナリト思惟スル者ヲ以テ家督相續人ニ選定スル專權ヲ有スルモノニシテ其選定シタル家督相續人ノ適當ナルヤ否ノ事實ニ對シテハ裁判所ノ干渉スヘキ限ニ在ラス何トナレハ若シ之ヲ否テストスレハ親族會ハ家督相續人ノ選定權ヲ有スル名アリテ其實ヲ失フ結果ヲ生スレハナリ由是之ヲ觀レハ民法第九百八十五條ニ依リ家督相續人ヲ選定シタル親族會ノ決議ニ付テハ同條及ヒ其他ノ法令ニ違背シタル場合ニ在ラサレハ裁判所ハ其決議ヲ取消スコトヲ得サル

ハ勿論ナレハ云云ト而シテ過半数ノ意義ニ付テハ民法第九百四十七條ニ親族會ノ議事ハ會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ストアルハ會員全體出席ノ上過半数ヲ以テ之ヲ決スヘキ旨規定シタルモノニ非スシテ缺席者ノ有無ヲ問ハス會員全體ノ過半数ヲ以テ之ヲ決スヘキ旨規定シタルニ過キスト判決セリ(大審院明治三十七年一月二十八日第一民事部判決例)

○振出人ノ肩書ニ記載セル住所以外ニテ發行シタル約束手形ノ效力ノ約東手形振出人ノ肩書ニ記載セル最小行政區畫地ハ振出地(商法第五二五條第七條)タルノ要件ヲ具備セルモノナルヤ否ヤハ事實裁判所ノ認定權ニ屬スルモノナリトハ我大審院ノ判例ノ示ス所ナルカ今右ノ手形カ其肩書地以外ニ於テ振出ナレタルコトヲ發見シタルトキハ其手形ハ手形トシテ效力ナキモノナルカ大審院ハ曰ク本件係争ノ約束手形ノ如ク振出地ナルコトヲ明示セスシテ振出人ノ肩書トシテ地名ヲ記載シタル場合ニ於テ其地名ハ果シテ振出地トシテ記載シタルモノナルヤ又ハ住所地トシテ記載シタルモノナルヤ之ヲ判斷スルハ一ニ事實承審官ノ專權ニ屬スヘキハ固ヨリ論ヲ待タズ本件ハ原院カ一面ニ於

テハ當事者ノ提出シタル證據ニ依リ振出行爲アリタル地域ハ手形ニ記載セラレタル前橋市ナルコトヲ判斷シ他ノ一面ニ於テ振出人ノ肩書ニアル地名ハ其住所地ヲ記載シタルモノト判斷シ乃チ振出地ノ記載ヲ缺キタル無効ノ手形ナリト判示シタルヲ以テ被裏書人タル上告人ノ善意ナルト惡意ナルトハ手形ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス是故ニ振出人ハ善意ノ被裏書人ニ對シテモ亦手形ノ無効ヲ以テ防禦方法トスルコトヲ得ヘキハ當然ナレハ之ヲ採納シタル原判決ヲ指シテ手形ニ關スル法則ヲ不法ニ適用シタルモノト云フヲ得ス(大審院明治三十六年七月二十六日第一民事部判決例)

○地上權者ノ有スル工作物ノ競賣開始決定ノ效果ニ關シテ地上權者所有ノ建物ニ對シ裁判所カ競賣ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定ノ效果ハ當然地上權自體ニマテ及フヘキカ此點ニ關シ法律ニ明文ナキヲ以テ一ノ疑問タラサルヲ得今大審院ノ判決ヲ見ルニ曰ク凡ソ地上權ハ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ他人ノ土地ヲ使用スル權利ニシテ敢テ工作物又ハ竹木カ現實其地上ニ存在スルコトヲ必要トセス苟モ其目的カ工作物又ハ竹木ヲ使用スル爲メ他人ノ土地ヲ使

用モンコトヲ期スルヲ以テ足レリトスヘキモノナルコトハ上告人所論ノ如ク
 ナリト雖モ既ニ工作物又ハ竹木カ現實其地上ニ存在シ之カ爲メ地上權ノ設
 ル場合ニ於テ其工作物等ヲ不動產トシテ之ニ對シ競賣ノ申立アリ別ニ反對ノ
 意思表示ナキ限りハ其競賣開始決定ニ依リ其不動產ト其ニ之ニ附隨シテ地上
 權ニマテ其差押ノ效力ヲ及ホサシムルヲ通例トスヘキコトハ既ニ當院ノ法意
 トシテ認ムル所ノ判例ナリ而シテ本件ニ付テハ原判決ノ認メシ事實ニ依レハ
 被上告人カ競落シタル建物ハ元來其使用ノ爲メ地上權ノ設定アル不動產ニ係
 リ被上告人ハ競落ニ依リ其所有權ヲ取得シタルモノナレハ其所有權取得ト同
 時ニ地上權モ被上告人ニ移轉スヘキヲ通例トス是ヲ以テ原判決ハ其理由中ニ
 於テ反對ノ意思表示ナキ限りハ地上權ハ工作物又ハ竹木ノ所有權ト其ニ競賣
 セラルヘキモノナルニ依リ本件建物ノ競賣申立ハ地上權ニモ及フヘキハ論ヲ
 俟タス從テ差押ノ效力ハ地上權ニモ及フヘキ筋合ナレハ云云ト判示シ上告人
 ノ主張ヲ排斥セシモノナレハ原判決ハ上告論旨ノ如キ民法ノ規定ニ違背シタ
 ル點ナシト(大審院明治三十六年(三)第二百五十五號建物取除)
(請求事件明治三十七年二月五日第二民事部判決)

法政大學廣告

○專門部

正科生別科生共缺員アリ臨時入學ヲ許ス

專門部生徒ニハ當該學年級講義錄ヲ無代價ニテ頒與ス

○高等研究科

臨時入學ヲ許ス

○聽講生

臨時入學ヲ許ス

○校外生

臨時入學ヲ許ス

○特別法講義錄

毎月一回發行月謝金拾五錢

本大學ノ創刊ニ係ル講義錄ニシテ其科目ハ府縣制、郡制、市制、町村制、現行租稅法論、戶籍法、
 不動產登記法、供託法、非訟事件手續法、人事訴訟手續法、競賣法、特許法、意匠法、商標法、著作
 權法、公證人規則、執達吏規則トス

○法學志林

梅博士每號執筆

毎月一回發行本大學講師其他專門家ノ論說及纂論、質疑ノ解答、寄書、散錄、漫評、判例、雜報、
 記事等ヲ掲載シ攻法家ノ參考資料トス

三十七年三月

司法部指定
 文部省認定

私立法政大學

特別法講義錄

第十二號 (三月三日發行)

每月一回發行
謝金十五錢

市制町村制

法學士 松浦鎮次郎

競賣法

法學士 吾孫子勝

特許法

法學士 杉木貞治郎

執達吏規則

法學士 岡八

表紙及七目次

其他本講義錄ニ掲載スル科目左ノ如シ
○府縣制、郡制(松浦學士) ○現行租稅法論(若規學士) ○戶籍法(完)(島田學士) ○不動産登記法(鈴木學士) ○供託法(塚田學士) ○人事訴訟手續法(完)(松岡學士) ○非訟事件手續法(橫田學士) ○意匠法、商標法(杉本學士) ○著作權法(水野博士) ○公證人規則(山脇學士)
●一號ヨリ取揃費需ニ應ス

三月 法政大學

明治三十七年三月五日印刷
明治三十七年三月八日發行

(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區西ノ久保明壽町十一番地 金子活版所

發行所 東京市總町區富士見町六丁目十六番地 司法省 法政大學

(電話番町百七十四番)

明治三十六年十月十二日 第三種郵便物認可
每月十四日、二十日、二十五日、三十日、十一月五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日發行